AMDA Journal －国際協力－　6月号　□1998年 6月1日発行　（毎月1回1日発行）　1995年11月27日　第三種郵便物認可

月刊

AMDA 国際協力 Journal

6
JUNE
1998.6.1
(VOL.21 No.6)

AMDA プロジェクト　特集

AMDA インターネットステーション

熱いぜデジオ!

スターデジオは聞く PerfecTV!

驚異の高音質100チャンネルデジタルラジオ

J-POP STATION ch400-419

KAYŌ & ENKA STATION ch420-429

JAZZ SPECIAL STATION ch430-439

CLASSIC SPECIAL STATION ch440-449

FOREIGN POPS STATION ch450-474

EXTRA ch475-499

STAR digio

ch400-499

お問い合わせは PerfecTV! カスタマーセンター 東京 0570-039-888 受付時間 9:00~21:00

BROUGHT TO YOU BY DAIICHIKOSHO CO.,LTD.

バングラデシュ　サイクロン被災地で医療活動

中国　内モンゴル歯科診療

ミャンマー
メティーラにおける巡回診療

カンボジア
デイケアセンター

AMDAプロジェクト
アジア編

ネパール　コミュニティセンターの開所式

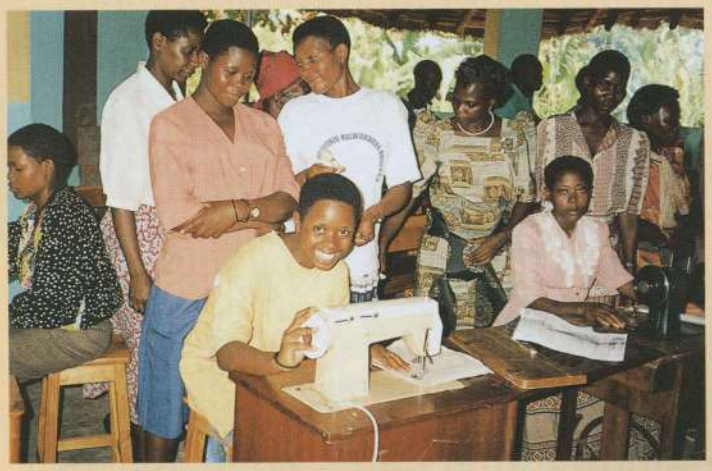
アフガニスタン　大地震緊急救援活動　移動中

インドネシア
1997年9月、南スラウェシ島地震への緊急救援活動

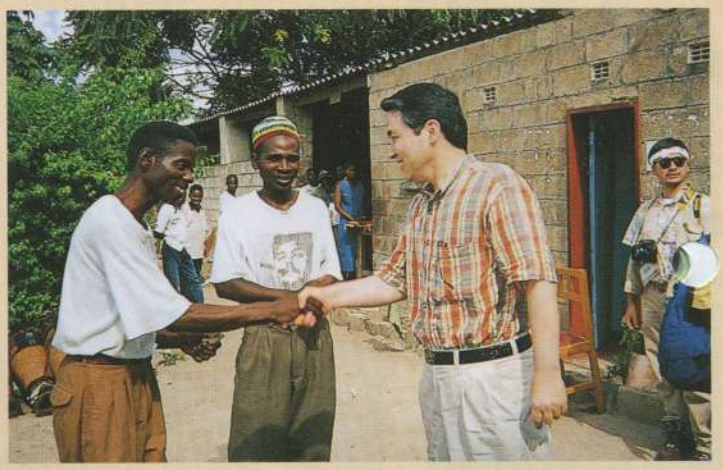
フィリピン
緊急救援方法を書いたカレンダーを配布

AMDAプロジェクト
アフリカ編

ジプチ
アリサビエ難民キャンプ



ウガンダ　ABCプロジェクト



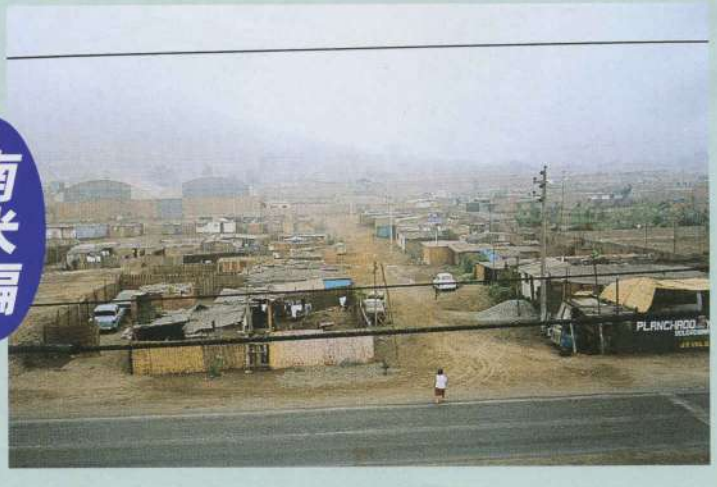
ザンビア　支部開所式を前に

ケニア　保健衛生教育

ルワンダ　ABCプロジェクト

南米編

ボリビア
アメリカからのインストラクターによる緊急医療の研修



ペルー　リマ近郊のスラム街

AMDA 国際協力 Journal

1998
6月号

◇

CONTENTS

AMDAプロジェクト特集	4
AMDAザンビア開所式にあたって	8
AZROプロジェクト報告	9
旧ザイール・キンシャサ報告	12
カンボジア報告	16
AMDAインターネットステーション	17
AMDA広報活動	20
大脇甲哉のクローズアップ	24
JANANフォーラムダイジェスト	26
国際協力ひろば＜学校＞　開成小学校	28
〃　＜地域＞　高知ラオス会	30
〃　＜企業＞　RCC福山放送局	32
〃　＜ひと＞	34
AMDA国際医療協力研究会	36
栃木便り	37
JICA研修報告	38
AMDA国際医療情報センター便り	45
事務局便り	50

表紙の写真

ウガンダ子ども病院建設を訴える AMDA高校生会

AMDA高校生会は、AMDAのウガンダ子ども病院建設プロジェクト支援の舞踊コンサートに出演して、「赤道直下の『生』をつなぎ止めよう」と、ウガンダの現状と病院建設費用の募金を訴えた。

世界に広がるAMDAのネットワーク　アジア編

インドネシア

カンボジア

中国

フィリピン

インドネシア

インドネシア支部は、緊急救援プロジェクトを中心に活動を進めてきた。その一環として、緊急救援に備えるため、本年度は医療関係者のみだけでなく女性など一般の人々への広い教育活動を行ない、緊急事態対応体制を整備する予定。

カンボジア

首都近郊地域において診療所を開設し、特に貧困層への医療活動を行ってきたカンボジア支部は、本年度より規模を拡張し、特に地雷被害者への医療活動を推進すると同時に地雷被害者を中心とする障害を持つ人々へ職業訓練の場を提供する予定。デイケアセンターの運営も引き続き行う。

中　国

1996年に発生した雲南省大地震救援活動以来、学校再建設や歯科医療巡回プロジェクトを実施してきた。昨年は内モンゴルへの調査団を派遣し、特に子どもの歯科衛生向上を目的として、歯科医療を開始した。

フィリピン

AMDA国際ボランティア研修センター運営、多言語対応医療マニュアル作成などプロジェクトの支援業務が主と見られがちなフィリピン支部であるが、女性自立支援プログラムなど保健衛生プロジェクトも行っている。本年度は首都貧困層への自立支援事業を開始する予定。

インド

インド薬草園プロジェクト。

これまでインド国内では平成4年度から各種のプロジェクトを実施してきたが、平成10年度よりインド中部ナガプールにアユベーダ薬草園を造設し、、低所得者層を対象に、薬草配布と健康教育、識字教育を実施する。

AMDAでは発展途上国で、医療活動や保健衛生教育、人材育成支援などの開発活動を行っています。
本号では、アジア・アフリカ・南米の各国ごとの主なプロジェクトの概要を紹介します。

ミャンマー

首都から車で16時間の都市メティーラを中心に巡回医療・児童給食活動・浄水機設置による飲料水改良などによる生活環境改善を実施している。その他に97年12月より現地医療・保健スタッフに対しUNDPと協力し、衛生教育向上プログラムを推進し、98年度建設開始予定の地域病院での人材養成を併せて行っている。

ミャンマー

アフガニスタン

・1997年より郵政省国際ボランティア貯金配分金プロジェクトとして、ヘラート事務所を開設、国内被災民救援活動開始。98年6月終了。
・新たなプロジェクトとして、東部アズロよりパキスタンへ流出している難民の本国帰還を支援する医療プロジェクトの展開について国際機関と交渉し準備をすすめている。
・北東部タカールで98年2月発生した大地震の調査及び被災者救援活動を実施し、23日終了。

アフガニスタン

バングラデシュ

・1992年より各種活動を展開してきた。97年は金曜日無料診療、サイクロン緊急救援を実施。
・マイクロクレジットプロジェクトを1997年より実施。
・国際人道援助活動を裏方で支える現地派遣コーディネーターを養成する国際ボランティア研修センターを設立中である。
・98年夏にスタディツアーを受入予定。

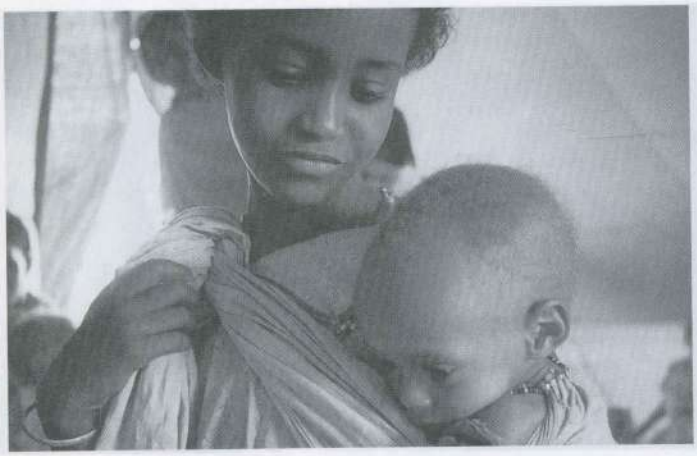
バングラデシュ

ネパール

・ブータン難民及び地元民のための医療センターを1992年より継続運営しており、97年同センター内に医療助手養成校を開設した。
・1997年津山ロータリークラブの御寄付により、カトマンズ市内にAMDAクリニック開設。現在各科専門診療、識字教育を行っている。
・1997年毎日新聞社に寄せられた読者からのご寄付等により、AMDAネパール子供病院をブトワル市に建設中である。この敷地内にボランティアセンター11月2日開所式予定。
・98年夏にスタディツアーを受入予定

ネパール

世界に広がるAMDAのネットワーク　アフリカ編



ジプチ

ジプチ

●アリサビエ難民キャンプ医療プロジェクト

平成10年３月現在　ジプチ共和国アリサビエにはおよそ22000人の難民が３つのキャンプに分かれて生活している。AMDAは、ここで医師を派遣し、また現地のヘルスワーカーを雇用し、難民への医療活動を実施する。

ジプチ市産婦人科病院技術協力プロジェクト

●AMDAはジプチにある、ダル　エル　ハナン産婦人科病院において医療レベルの拡充と現地スタッフの教育を目的とした医療事業を実施する。

ウガンダ

ウガンダ

●ABC(AMDA Bank Complex)プロジェクト

首都カンパラ近郊のムコノ県において、女性自立支援を目的にし、医療（衛生教育）、教育（職業訓練）、経済（小規模貸付）の３分野を組み合わせたABC　プロジェクトを実施する。

●AMDAウガンダこども病院建設プロジェクト

98年２月、首都カンパラ近郊のムコノ県から、2,09 haの土地の提供をうけている。ここで、エイズ患者と子供の治療を中心にした病院の建築を着工する。

ザンビア

ザンビア

●1998年３月14日にAMDAザンビア支部を開所

●「プライマリーヘルスケア」プロジェクト

(JICAと共同事業)

首都ルサカ市に調査に入ってから３年目だが、本年度は、調査より選定したコンパウンドにて「貧困と健康」をテーマに「下痢と栄養失調」を対象としたプロジェクトを推進していく。主に、昨年度に基礎調査を行った「マイクロクレジット（小規模融資）」の実施準備、そして、「薬剤生協」の基礎調査を実施する。

●「救急救命センター」プロジェクト

同じく首都に位置する大学病院内に、ザンビア初の24時間対応の救急救命センターを設置する。一般外来しか受け付けていない現状では現地の需要はかなり高い。

ケニア

ケニア

●ABC(AMDA Bank Complex)プロジェクト

首都ナイロビ近郊スラムにおいて、女性自立支援を目的にし、医療（衛生教育）、教育（職業訓練）、経済（小規模貸付）の３分野を組み合わせたABC　プロジェクトを実施する。

ルワンダ

●シェルタープロジェクト

ルワンダ帰還民を対象に、首都キガリ近郊のトランジット（仮設）キャンプに、環境問題を考慮して、木材ではなく、圧縮した紙を柱にしたテントをUNHCRと協力して建設する。難民テントの支柱に紙を使うのは、世界初の試みである。

●ヘルスセンター再建プロジェクト

ギタラマ県で、内戦で荒れ果てたヘルスセンターの再建をおこなう。

●職業訓練所再建プロジェクト

首都キガリ近郊の内戦で荒れ果てた職業訓練所を再整備する。

●病院再建プロジェクト

内戦で荒れ果てたギタラマ県ギトウエ病院の再建を行う。

ルワンダ

●ABC（AMDA Bank Complex プロジェクト

首都キガリ近郊で、女性自立支援を目的にし、医療（衛生教育）、教育（職業訓練）、経済（小規模貸付）の3分野を組み合わせたABCプロジェクトを実施する。

世界に広がるAMDAのネットワーク　南米編

ボリビア

ボリビアでは、事故などで外傷による死亡率の高さが社会問題となっている。そこで、AMDAボリビアは現地のNGOと協力して、救急医療の出来る医者及び看護婦の研修を実施してきた。本年度は、このプロジェクトは3年目を迎えるが、今後とも有資格医師の育成・輩出を推進し、全国的に展開していく。

ボリビア

ペルー

首都リマ周辺及び近郊都市において、疾患の多い子宮癌、結核、呼吸気障害、その他伝染病の予防、早期発見、治療のためにレントゲン車による巡回診療をAMDAペルーが現地NGOと展開する。既に、レントゲン機材については日本国外務省の草の根無償資金より援助を受けている。

ペルー

AMDAプロジェクト担当者

フランシスコ フローレス

成澤　貴子

ニルマル リーマル

岡安　利治

岡崎　悦子

中嶋由起子

AMDAザンビア開所式にあたって

AMDA代表　菅波　茂

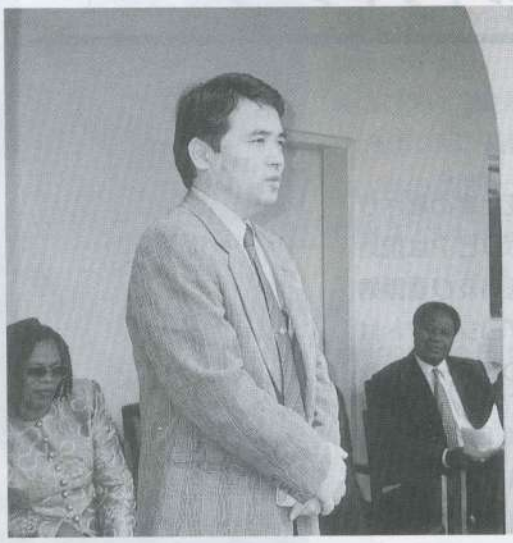
AMDAザンビア事務所開所式にあたっての菅波代表の挨拶（要旨：原文は英文）

今日のＡＭＤＡザンビア事務所開所式にあたり、AMDA JAPANを代表してご挨拶申し上げます。

世界の人々の平和を脅かす要因には３つがあります。１つは戦争です。２つ目は災害です。３つ目は貧困です。

私の聞くところによるとザンビアには72の民族の人達が仲良く平和に暮しているそうですから、これは多様性の共存という意味で先進国です。

ではAMDAの３つのコンセプトとは何でしょうか。



１つは、すべての人達が誰でも人道援助に参加したがっているということです。ネパールという国があります。小さな国です。国の予算の80%を外国の援助に頼っています。しかしこの国の人も人道援助に参加しています。だれでもチャンスがあれば人助けをしたいという気持ちを持っているのです。

２つ目は、こうした気持ちの前には宗教、人種の違いなどはたいした問題ではないということです。

３つ目は援助を受け入れる側にもプライドがあるということです。1991年にミャンマー難民で援助を受け入れた事がありました。ヨーロッパのＮＧＯは入国に際してバングラデッシュの空港で１週間留められました。しかしAMDAはすぐ入って活動する事が許されました。普通なら許可を得るのに３ヶ月要するのです。それはＡＭＤＡのチームのリーダーがバングラデッシュ人だったからです。この事実は援助を必要とする人にもプライドがある事を示しています。顔をつぶされることを好む人はいません。こうした事実は私達に援助活動にはローカル・チャプターがリーダーシップをとるべきである事を教えてくれました。

この３つのコンセプトをAMDAザンビアの活動に実現していただきたいと思います。

そしてAMDAの活動のターゲットは３つあります。

１つは緊急人道援助。

２つは社会開発。

３つ目は教育プロジェクトです。

また人間の関係には３つのタイプがあります。

１つ目はフレンドシップ。

２つ目はスポンサーシップ。

３つ目はパートナーシップです。

スポンサーシップは一方通行ですが、パートナーシップは相互の関係です。それは信頼と尊敬です。時間と活動と知恵を共有する事でこれは実現されるものです。

プロジェクトはこの信頼と尊敬で維持されます。災害、平和、貧困プロジェクトのリーダーシップは地域の事情を良く知っているローカルの人によって行われるべきです。

インターナショナル関係はローカル、バイラテラル（２国間）、マルチラテラル（多国間）の関係からなっています。これらを組み合わせることによって有効な取り組みが可能になります。大切な基本は、すべての人が人道援助に参加したがっている。すべての人がプライドを持っていると言う事です。

私達はアジアの知恵を持っています。今回AMDAザンビア事務所が誕生した事でアフリカの知恵を勉強する事ができるようになりました。AMDAザンビアとともに相互理解、相互信頼で活動を進めていきましょう。ローカルリーダーシップを大切にして多くの皆様とともにＡＭＤＡザンビアを発展させていきましょう。

AZROプロジェクト報告

AMDA医師　三宅　和久

1：AZROプロジェクト概要

過去日本政府はアフガニスタン難民援助の為、国連に対して莫大な資金を投じて来た。しかし、国連の計画通りには難民は帰還せず、日本が多大な援助をしているという事実も全く表に出て来ない。援助は全て国連やその金が流れる欧米のＮＧＯが行っているというようにしか見えず、援助の努力に対するあまりの評価の低さ、国連による計画の効果の無さに、日本としての国連に対する支援のし方に見直す動きが出てきた。つまり、国連に任せきりにせず、もっと積極的に介入して資金の使い方を指定し、うまく行きそうなら資金を出すが、やり方がおかしい時、効果が上がっていない時はそれ以上資金を放出するのを止め、資金を凍結するというようにしたのである。

アフガニスタン難民に対する支援の効果が上がらない最大の原因は、国連の縦割り行政的な援助のやり方にあった。国連の各援助部門がそれぞれの仕事はしても、横の連絡はとらない為、学校なら学校計画だけ、病院はまた別の場所に病院だけ作るといった具合に、難民の帰還に必要なそれぞれの仕事に、全くまとまりがなかったのである。したがって、資金を出す日本が国連の各援助部門の上にコーディネーターを派遣し、包括的な効率の良い援助を行っていく事になったのである。

パキスタンの北西辺境州ペシャワールにはAZRO出身の難民が8万人いるが、UNHCRが彼らにアンケート調査を行ったところ、病院、学校、仮住居、食料飲料水などが保証されるのなら帰りたいという結論を得た。この結果を元にUNHCRはAZROに総合的な帰還の為の施設を作り難民の帰還を促すプロジェクトを立てたが資金的に行き詰まった。その際、日本外務省に協力を要請し、外務省は、上記の改善した方法を実施する事を条件に、ＵＮＨＣＲへの協力と資金援助を決めた。AMDAは'97年よりアフガン西部のヘラートにてＷＨＯより委託される形で、女性に対するマイクロクレジットプロジェクトを行って来た。また、'98年2月のロスタクにおける大地震の際は、速やかにメンバーを送って治療に当たり、最も早く現地で活動した ＮＧＯの一つとして内外で高い評価を得た。

AMDAはUNHCRに協力して、AZRO地区に作られた診療所と病院の運営、現地での治療を行う事を決定し、現地へのメンバー派遣の準備に入った。現地が交通困難な地域である為、４月下旬を目標に順次メンバーを送っていく予定である。

2：AZROの地理的概要

AZROはアフガニスタンの東部・LOGAR州の北端にあり、NANGへ至る道 ARHAR州（JALALABADがある州)とのほぼ境界に位置している。

主要幹線からAZROへ向かう経路は2つあり、一つ目はJALALABADから南西へ向かい直接AZROへ至る道、二つ目はKABULから一旦南へ向かい、その後東に迂回してAZROへ至る道である。

一つ目の道はJALALABADから120kmで、道路状態が良い時で、四輪駆動車で６時間から８時間かかる。しかし、道とは言ってもほとんど川の中を走っている状態で、ＡＺＲＯの手前にも険しい峠が2つある。雨が降ると川は増水して渡河困難となり（ただし、雨が止んだ次の日は、川の水量は元に戻る）、峠道が泥でぬかるんでチェーンを巻いてもほとんど走行不能となる。

2つ目の道は、JALALABADから行った場合距離的には長いが、１つ目の道より道路状態が良い為、JALALABADからの所要時間は1つ目の道とほぼ同程度である。どちらの道も冬は雪の為閉ざされ、ほぼ通行不能となる。雪溶けは１つめの道の方が早い。今年の2つめの道の通行可能時期は、4月初めくらいだろうとのことであった。また、どちらの道もしっかりした四輪駆動車でのみ走行可能で、前輪駆動車は全く役に立たない。

AZRO地区は東西約40km、南北約20kmの広さで、大小37の村があり、その間はいくつもの山で隔

てられている。人口は900家族、約6300人くらいではないかと推測される。

添付に記したAZRO地区のうち、中心はAKBAR KHELで、ここにUNHCRが今回建てた病院が1つ、診療所が1つある。他にMOOSA KHAN、SANG-BARAN Valley、TANG Valley、MANGAL Valleyに診療所が各1つずつある。これらの診療所のうち、TANG Valleyだけは徒歩用の道しかなく、車道から歩いて4時間かかる。また、SANG-BARAN周辺だけはまだ地雷が残っている。各地区は渓谷にある為、中心地から各地区へは車で30分から1時間かかる。

AZRO地区全体で現在医者は地元の医者ただ1人であり、その個人診療所は中心のAKBAR KHELにある。なお、AZROの北部が急な戦闘行為などで通れなくなった場合には、AZROの南にパキスタンのPARACHINARへ通じる道があり、夏なら車で2時間で、徒歩でも数時間で国境へ脱出できる。

3：AZROの医療施設について

5つの診療所については、各々5この部屋がある。現在備っているのは建物のみで、電気はなく、発電機が必要である.水は、TANG Valleyを除いては井戸があり、その水を使うこととなる。TANG Valleyでは、車道から徒歩かロバで水を運ぶしかないとのことであった。(しかし、これは疑問! 家がある以上、水はあるはずである!)なお、SANG-BARAN Valleyの水は非常にきれいとのことであった。

各診療所の医療用備品は現在のところ何もない。今後揃えていかなければならない。

各医院の必要職員は、各々医師1人、看護婦2人、アシスト2人、他にガードなどである。

AKBAR KHELの病院についても、現在のところ備品や電気設備は無い。部屋数ははっきりしないが、必要職員は医師3人、他看護婦、アシスト、検査技師、ガード等 総勢40人をHCRは見込んでいる。水は少し北にある水源地から供給される。

4：AZROでの活動時期について

アフガン内の他の山岳地帯でも同様だが、冬の間は雪で道路が閉ざされ、その地域への出入りが困難あるいは不可能となる為、AZRO在住者以外のAZROでの治動時期は、主として夏季の6カ月に限られる。これは5月から10月までである。

冬期の6ヵ月のうち3ヵ月間は積雪や雨による道路状況の悪化の為、しばしば通行困難となる。残る3ヵ月は積雪の為、車による通行は不可能となる。

したがってAZROでプロジェクトを行う場合、夏の間は外国人メンバーとローカルスタッフで運営し、冬はローカルスタッフのみの運営となる。また夏の間に薬や必要物品を運んで冬の為に蓄えておかねばならない。

5：AZROにおけるAMDAの活動目標

AZROプロジェクトは、あくまで難民帰還の促進が目的である。したがってAMDAがAZROにてプロジェクトを行う場合、その順序としては以下のようにすることになる。

(1) まず中心となるAKBAR KHELの病院にメンバーを送り、中核病院の立ち上げを行う。

(2) 立ち上げの時期はある程度の数の外国人医師を数ヵ月単位で雇用して送り、病院をやっていけるなら、次に診療所にメンバーを送り、医療可能地域を広げる。

(3) 同時に、ペシャワールにある難民キャンプの中からAZRO出身の医師、看護婦を雇用し、彼らと彼らの家族を帰還難民としてAZROへ送り、病院、診療所のローカルスタッフとする。

(4) 10月をメドに、一旦外国人スタッフはAZROから撤退する。冬の間は、夏に蓄えた薬を元にローカルスタッフのみで運営する。

(5) 次の春2年目からは、外国人スタッフは減らす。コーディネーターを主とし、医師のメンバーも直接診療はなるべくローカルスタッフに任せ、主にメディカルコーディネーターとして働く。また、応急的な医療スタッフを増やす為、実践的な医療教育も行う。この間、AMDAが撤退してもローカルスタッフが収入を得て働いていけるよう、徐々に患者の一部治療費負担を開始し、完全独立採算制に移行するまでは地方行政や国連から給料の一部や薬が供給されるよう交渉する。

(6) 3年をメドにAMDAの外国人メンバーは撤退する。その時、残るローカルスタッフがAMDAアフガニスタンとなり、AZROの医療に従事すると共に、次のアフガン内でのプロジェクトを支える下地

になれるようにする。

ただし、この際気をつけなければならない事は、他国のAMDAのメンバーのように外国への研修や留学を約束してはならない。彼らには故郷の立て直しの為、地域に根を降ろしてがんばってもらわなければならない。外国へ行かせると、彼らはAZROへは帰って来ず、今までの努力も投入した資金も全て無駄になるであろう。彼らの技術向上の為には、日本から医師の自己負担によるスタディツアーを送り、技術教育、医療交流を図る方が良い。

6：AZROプロジェクトの為のAMDAの事務所について

パキスタンのペシャワール、アフガン内ではKABUL、AZROの3ヶ所に事務所を置く。ペシャワールを選ぶ理由はアフガンとの無線連絡に必要不可欠な場所であり、アフガンへの輸送の中心はペシャワールとイスラマバードである事に因る。

7：地雷について

ＡＺＲＯ地区のほとんどの地域は撤去されているが、SANG-BARAN Valleyにはまだ残っており、注意を要す!!

8：アフガン内の通信について

アフガニスタンでは電話線は破壊されたままであり、郵便システムも無い。また道路も極めて悪く、種々の危険も多いので、自分達自身で通信手段を確保する事が必要不可欠であり、これをまっ先に行った後、他の作業が初めて可能となる。

通信手段は以下の3つが必要となる。特に(1)と(2)は最初のメンバーに持たせて活動当初から備えていなければならない!!

(1)無線:移動用の2台の車両に各1台、AZROの事務所に1台、KABULに1台、ペシャワールに1台、最低5台は必要である。ＡＺＲＯの各診療所は離れているので、できればAMDAが入っている診療所にも置く方が望ましい。診療所を３つ運営したとすると、計8台必要となる。

(2) 衛星電話:AZROに1台、KABULに1台、少なくとも計2台は必要である。現在ＨＥＲＡＴに1台あるので、これをＡＺＲＯプロジェクトに回すことはできるが、その場合はHERATを閉めるのを急がねばならない!少なくとも1台は買う必要があり、HERATを閉めるのが遅れる場合は、２台買って持って行く必要がある。

なお、衛星電話にパソコンを接続してE-mailを送るのが一番通信費を節約できる。ＦＡＸも接続して使用した方が良い。

(3)国連、他のNGOの通信機器を使う:これは(1),(2)が故障した時や、非常時の方法であり、当初からこれに頼ってはならない!普段から他組織と連絡網を作っておく事は重要だが、アフガンでは独自の通信機器を備えておくことが、プロジェクトを行う際には絶対条件である。

<謝辞>本アフガニスタンプロジェクトには、ＢＨＮ支援協議会、NTTドコモ中国様より通信機器の提供を受けております。

毎日新聞　1998年（平成10年）4月10日（金曜日）

国連のアフガン難民帰還プロジェクト

AMDA医師１人派遣

病院運営や巡回診療

内戦が続くアフガニスタンの難民を帰還させる国連の総合プロジェクトに、岡山市に本部を置くＡＭＤＡ（アジア医師連絡協議会）が参加することになり、９日、医師１人を現地に派遣することを発表した。

同プロジェクトは、ＵＮＨＣＲ（国連難民高等弁務官事務所）が計画。パキスタン・ペシャワールにいるアフガニスタン・アズロからの難民約８万人を帰還させるため、アズロに病院や学校、住居、飲料水などを総合的に整備する。このうち病院の運営や巡回診療など医療面でＡＭＤＡが支援する。

派遣されるのは、神戸市内の病院に勤務していた柴田俊一医師(31)。現地では、１病院、５診療所の建設が進んでおり、医師や看護婦らをスタッフとして雇い、今月下旬から活動を始める予定。３年後には現地スタッフだけで運営できるよう実践的な医療教育もする。

柴田医師は「今年２月に地震が発生するなど、つらいニュースが続くアフガニスタンだが、今回は朗報が伝えられるよう努力したい」と決意を語った。【神谷　素生】

10日の出発を前に記者会見する柴田医師（右端）

旧ザイール・キンシャサ近郊における医療事業報告

（1998年1月1日～1998年3月31日）

AMDA看護婦　中原　美佳

AMDAは現地カウンターパートであるローカルNGO：GRAFBAFと共同で医療プロジェクトを実施した。活動拠点は、GRAFBAFが運営するキンシャサ郊外のヘルスセンターであった。周辺住民約2万人をカバーしており、他に医療施設はないことから、同ヘルスセンターで活動の必要性は非常に高い。ここを基点としてAMDAはこのヘルスセンターを訪れる現地住民の診療活動、医薬品及び必要医療機材の配給、設置、医療システムの構築等の事業を実施した。

1）外来診療活動

同ヘルスセンターを外来として訪れる患者の数は、医療活動開始時点で非常に少なかった。これは現ヘルスセンターの医療技術の不足と、患者受け入れ体制の不備に起因するとみられる。同ヘルスセンターの現地医師と共同のもと診療活動を実施した。

結果、徐々に外来患者数は増加している。

2）医薬品及び医療機材の設置

医薬品の絶対的な不足も深刻な問題であったため、基本医薬の配給を行った。また、同ヘルスセンターには簡易外科のための部屋があるものの、機材が不備であったために、簡易外科処置を施すことができなかった。このためAMDAは簡易外科セットを設置し、現地医師の使用トレーニングを実施、外科措置もとれるように整備している。

3）医療システムの構築

現地では患者のカルテが保存してなかったり、診療時間がまちまちであったりと、診療システムの不備が多かったため、現地医師及び、現地ヘルスワーカーの教育を実施し、システムの構築を図っている。これにより再外来の患者等の前回の診療過程が分かる等、診療の質の向上にも貢献している。

現在同ヘルスセンターを訪れる患者の数は増えてきている。また、現地住民からも継続的なAMDAの同ヘルスセンターにおける活動が求められている。

キンシャサの周辺（旧ザイール・現コンゴ民主共和国）

＊政　府

カビラ大統領になってから良くなりつつあるというものの、何一つ変わっていない様子。お札も切手も公的機関の印も書類もザイールのままである。

新政権は何一つ決めておらず、憲法もない。NGOにとっても影響があり、東部でNGOが反政府活動をしているとかで、非常に神経質になっている。登録済みのNGOも今一度調べ、厳しくするよう閣議で話し合っている。というわけで政府はNGOに好意的ではない。私たちもこれに振り回され、指定された場所に行っても誰もいなかったり、法外なお金を請求されたりで、長い時間要した結果、膨大な書類を請求された。

しかしこの内乱で活躍した軍隊に給料をきちんと払ってないらしく、不満が高まりつつある。公務員はこの物価高に低賃金で働いている。（看護婦10$／月）そのため彼らのほとんどは賄賂を取って生計を立てている。これから考えられるのは国民の不満が徐々に高まり2～3年後にはまた内乱が起こるのではと在キンシャサの外国人は噂している。

＊治　安

今のところ落ち着いていると言えるが、大使館の方から、一人歩き、夜間の外出は控えるように言われている。確かに外国人の姿はあまり見かけない。内乱中、国外に出て帰ってきてないらしい。以前は

道を歩けば兵士がお金を請求したり、時計などを取ったりしたらしいが今兵士はちらほら見かけるものの、そのような事はしない様子。

＊生　活

1）交通

コンゴ人はローカルの流しのバス、相乗りタクシーを使用している。目的地にたどり着くのに何度も乗り換えなければならない。一台、0.4$ぐらい。しかし現地人でも乗りこなすのは難しい。もし個人でタクシーを使用すれば100$は軽くかかる。キンシャサでの移動は車は必需品である。キンシャサから他への移動も前大統領の政策から、道路がほとんどなく、飛行機、船での移動となる。私たちはマンボ氏（AMDAウガンダオフィス代表）の計らいで、ドライバーとガソリンを含めて40$/日でレンタカーを借りている。中古車は内乱時の盗難車の可能性がある。道路はかなり悪いが最近整備を始めた。しかし大統領や官僚関係者が通ると道路は封鎖するためかなり渋滞し、それが頻繁で、移動に時間がかかる。

2）郵便

他の公的機関と比べてかなりよく機能していると思われる。日本からの郵便も着いているし、ここからの発送も時間はかかるものの届いているようである。私書箱も簡単に作ることができた。

3）電信

これも前大統領の政策で国際電話がローカルの電話からできない。受信はできる。またローカルの電話線もほとんどない。電話をかけたいとき、FAXを送りたいときは、私営のTelcommunication centerにかけに行く。これもどこにでもあるとは限らない。ここでは衛星の線が使われている。そのため今、携帯電話が大流行である。ホテルからの電話はローカルのみかけられるが、国際電話は受信のみである。ＦＡＸも受信だけでチャージを払わなければならない。電話線を引くのも郵便局が請け負っているがなかなか腰を上げない様子。その上、賄賂を含めて請求してくる。

4）ホテル

私たちが滞在しているホテルが安いといわれている。42～60＄／日である。設備はそう悪くない。

5）食生活

物価は非常に高い。日本以上である。ホテルでは魚とライスとソースがついて、20＄。ローカルのレストランでは、１食10＄から食べられる。中華、インド、イタリアン、フレンチ、アラブレストランなどもある。しかし、これも車無しではいけない。そのためスーパーマーケットでパンや缶詰、野菜などを買ってホテルの部屋で食事となる。最近ではホテルの近所に友人もでき、そこで家庭料理を安く分けてもらっている。ホテルの長期滞在者はここをよく利用している。菜食主義者のスルヤ医師（AMDAネパール）にはことばの問題もありローカルの安いレストランに行くのも難しい。ミネラルウォーターが１本２＄以上する。この暑い国でこの食費からアレンジすれば水も制限しなければならない。

6）レジデンス

ここでの賃貸住宅のシステムはだいたい７ヶ月の前払い、時にはそのうえ保証金、住む家の修理代を払う。家主との交渉で軽減できる可能性もある。マンボ氏が見つけていた家は最初６００＄／月の家賃で１０ヶ月の前払いと言っていた。とても払えないし、もし10ヶ月住まず引っ越したとしても次に住む人を捜さない限り返ってこない。かなり大きな家で家主とも連絡ができず、保留状態となった。マンションなどもあったが、エレベーターが古く高層マンションであり、停電の多い国でもあり、かなり不便となる。また壁などぶち抜いてあり、電線も引きちぎってあり、その修理も私たちが払わなければならなかった。家賃などの条件も悪かった。次に見たのは部屋数、立地条件、家賃なども条件がよく、次の週にも移動する予定だったが今住んでいる人が引っ越しを拒否したようで家主もそれから連絡がとれない。その後もいろいろあったが、外人ということで非常に大きな家だったり、家賃が高かったりで未だに見つからない。一度最初の家主が３ヶ月の前払いで良いとおりてきたが、ここも今住んでいる住人が引っ越しを拒否し、私たちに同居を求めてきた。この様な調子であり契約はしていない。現在いろいろな人にあたっている。しかし、ホテルに住んでいるコンゴ人でさえもレジデンスを見つけられず、私たちよりも長期に滞在している人が多い。内乱時、備

え付けの家具を持ち逃げされており、現在家具付きの家は望めない。またつい最近まで軍隊が民家を乗っ取っており、出るときにエアコン等持ち去り、電線、窓ガラス等壊している。

7）電気

場所によって停電の程度が違うが、よくある。注意したいのは停電後、回復したときに、時々電流が流れるためにショートして電化製品が壊れてしまう事があるらしい。時々停電をおこすくせに、一日中街頭は付けっぱなしである。電気代はそう高くなく、一般家庭で25＄／月払っている様子。

8）国民の生活

一部の人間は億万長者で、お城のような豪邸に住み、高級スーパーマーケットで買い物をし、車を何台も持ち、携帯電話を片手にレストランに出かける。一部の人間は非常に貧しい。パンとピーナッツ、砂糖も買えず、ブラックコーヒーを飲む。民族によって食習慣が違い、東の人間は３食食べ、西の人間は朝、昼の２回ですます。昼食はだいたい２時以降に食べる。しかしGRAFBAFのローカルスタッフを見ていると昼食を取らず、ただピーナツ、炭酸飲料、ビールですましている。

また貧富の差が非常に激しい。失業率も高い。ストリートチルドレンも多い。物価は日本以上に高いのに給料は低く、500＄貰っていれば高給取りである貿易会社、セルラーホン等がそれぐらい貰っているだろうとのこと。大学教授でも300～350＄ぐらいである。そのためあらゆる仕事をかけもちしている。ここでは電信センター、薬局とお墓が高級の商売となる。

9）医　療

医療機関がキンシャサで735軒以上あり、大規模のいわゆる病院といえるところは10軒。カソリック、プロテスタントの病院が多い。今何の連携も作っておらず、どのようにするかこれからの課題らしい。政府は何も考えずヘルスセンターを建て、低賃金だけを払い、後の管理はセンター任せである。多くあるセンター、そのため患者の確保の競争となり、薬、医療設備の整った所の勝利となっている。私たちのようなNGOが来れば医薬品、器具を得ようと必死になる。スタッフは充分にいるのだ。だれもマンパワーを希望しなかった。そして医者は非常にプライドが高い。レポートを作ったことのないセンターが多く、ほとんどがＮＧＯと称している。かといって我々のような団体がレポートを望むことを知っており、レポートは完璧に作っているが、それが真実か疑わしい事が多い。医療はどこも有料制であり、そのため貧しい国民にとっては通院するのは難しい。かれらは町中にある多くの薬局から売薬を購入する。薬剤師のいる薬局で買うならまだいいが、医療者である私たちが目を疑ったのは薬の青空市場があることだ。炎天下のなかでただのおじさんやおばさんが薬を叩き売りしている場所がある。そしてなかにはキャッチセールスをしているものもいる。何の知識もない人間がそれ以上に知識のない者に薬を売っている。彼らは薬は別の病気を起こす場合や使用方法を間違えれば危険なことを知らないのだ。コンゴ人に聞けばこれだけ病気が多いのだという。医療が間違った方向にあることは言うまでもない。

10）医薬品、医療器材

前述したように日本では想像できない医療業界で値段も自由につけられる。そして器材が揃わない。何軒の薬局を回ってもないものは、前払いして輸入物資が届くのを待たなければならない。今どこもレントゲンフィルムが無く、私たちも得るのに苦労している。ヘルスセンターなどが買い占め、高値で横流ししたりする。

11）ＮＧＯ

この国ではＮＧＯはひとつのビジネスとなっている。NGOと説明しても見当違いの質問をされたりする。この国にもかなりの数のＮＧＯがあるが、NGOと言ってビジネスまがいの活動をしている。政府に属していなければ皆ＮＧＯといえるのだ。

12）国民性

今彼らは何か言えば、全て内乱の政府のせいにする。そしてこの新政権が何か変えてくれることを待っている。国民でどうにかしようかということは口にもしない。現政権は東部の人間たちであるため、常に東部の人間は良いとされている。とにかく想像を絶する程、仕事をゆっくりする。人なつこく、おしゃべりで音楽好きで明るい人民である。

キンシャサ出張報告

◇

在仏日本国大使館　勝田　吉彰

AMDAとローカルNGOのGRAFBAFの協力で運営されている病院が、キンシャサ郊外、四輪駆動車で30分のところにある。ここは内乱前、この国がザイールと称されていた頃に訪問して以来、二度目の訪問であるが、幸い破壊されることもなく、きれいに残っていた。かつてベルギーから資金援助をしていた篤志家は姿を消してしまい運転資金のあてもなかったところ、倉庫にはAMDAから供与の日本製医療器材が見られ、一息ついているといったところである。

AMDAで供与した訓練センターでは、AMDAネパール医師によるレクチャーが行われている。これは、看護婦のリフレッシュが対象であるが、医療職以外からも参加希望者が多く、教室が満席になってしまう大好評ぶりであった。ODAで供与の教室内で、行われるAMDAのレクチャーが大好評、まさにODANGOプロジェクトの成功例を目の当たりに見る思いだった。

同じ建物に、administration部門があり、事務部門が、かなり精密な出納帳をつけていた。もともとローカルNGOではきちんとした金銭管理などというのは大変なことであるが、この光景はかなり特異といえる。マンボ氏による、プロジェクト開始前の評価レポートでは「信頼性なし」となっていたが、3ヶ月ちょっとでこの変化は大したものである。

どうやら、AMDA看護婦の中原さんが一から教えたようである。（その忍耐力に感激！）。

一昨年、小生が当時の臨時代理大使から、AMDAにメッセージを介させていただいた時、そのintention は、「当地で非常に活発に活動しているローカルNGOにGRAFBAFというのがあり、我が方からも草の根無償供与している。AMDAさんの方からノウハウを伝えていただければ、ありがたいのだが…」ということであった。したがって現在の状況、（中原さんの指導により）会計管理がなされるようになり、AMDAネパールのDrによりケアのレベルアップがなされているというのは、少なくとも最初のintention は充たし、このプロジェクトは成功をおさめているという事ができる。

ただ、現地の二人の計画、さらにレクチャーを地域の住民まで広げ、村に入ってゆくということがなされれば、さらに飛躍的に大きな効果が期待できるのは事実であり、その基礎が出来上がっているのだから、今すぐ終了、引き上げるのは「残念だ」というのが実感である。現地の要望もあり、できればこのプロジェクトの継続を検討していただきたい。

最終日の夜、大使館主催のディナーがあり、わが方のほか、WHO の Regional Director（ニジェールの元厚生大臣）、ＡＭＤＡの二人が出席した。その席でも、AMDAの活動への高い評価が話題になったのは想像どおりであるが、驚いたのは、そのWHO Director（Dr. Abdou　MOUDI）と、AMDAネパールのDr.SURIYAがソ連（当時）留学の同窓で，しかも、お互いかなり密接な関係の共通の知人がキンシャサにいる事実が判明したことである。現地での強力な人脈ができればと期待しつつ帰任の途についた。

カンボジア活動報告

コンポンスプー県活動地区における医薬品管理トレーニングプログラム

AMDAカンボジア代表　Dr. Sieng Rithy
翻訳　　荻野千明

本年３月30日首都プノンペン市近郊コンポンスプー県においてAMDAカンボジア支部による研修プログラムが実施された。このプログラムは保健所やコミュニティーレベルでの薬剤管理に焦点を充てたものであった。

コンポンスプー県内の12ヵ所の保健所と10ヵ所の地区からの３５名と、この地区の保健衛生の指導者であるエン・ソン医師や、私自身がこの研修に出向いた。

現在カンボジアで行われている保健制度改革では、保健所や地区レベルで働くヘルスワーカーのさらなる技術の向上が求められている。特に医薬品管理は非常に重要で、この分野での質の向上を支援すべくこのプログラムが計画された。

このプログラムは１日かけて行われた。トレーニング終了後、研修は好評であり有意義に行われ、将来的にも医薬品のより適切な管理にとって非常に有効であったとの評価を得た。

研修の最後にコンポンスプー県の関係者を代表してエン・ソン医師が、この地域での保健制度の再建を支援しているAMDAカンボジア支部を高く評価するとともに深い感謝の意を述べた。

TRAINING PROGRAM ON DRUG MANAGEMENT KAMPONG SPEU OPERATIONAL DISTRICT 30 MARCH 1998

By Dr. Sieng Rithy
AMDA-Cambodia's Representative

On 30 th March 1998 AMDA-Cambodia has organized a training program to Kampong Speu Operational District. The topic of this training was focused on drug management in health center and in the commune level.

35 participants from 12 health centers and 10 communes in Kampong Speu Operational District have attended this training.

Dr. Eang Song, Director of Kampong Speu Operational District; Dr. Sieng Rithy, AMDA-Cambodia's Representative have also participated this training.

In the new health system reform in Cambodia at present they need improve more and more the quality of health worker who works at health center and commune level.

The management system on medicine is very important and participating also in this reform, so it obliges us to make up this program for aiding them in better quality of working in this field.

The training was passed in one day full, after finishing the training we noted that it is very useful and will take a great advantage for them for the better management of drug program in the future.

Finally, on behalf of Kampong Speu Operational District, Dr. Eang Song has given a very high consideration and deepest thanks to AMDA-Cambodia for its effort to support to the rebuilding of health system in this province.

AMDA Internet Stationの黎明と今後の展望

◇

AMDA情報通信委員会委員長
姫路聖マリア病院外科
中野　知治

AMDA Internet Stationは、現在まで2年半の運用が24時間間断無く行われている。

今回の記念行事に寄せてAMDA Internet Stationの黎明と今後の展望についてまとめる。

1. AMDA Internet Stationの黎明

阪神大震災の時、情報発信、情報収集の手段として、AMDAは「パソコン通信」を利用していた。パソコン通信で得られた情報は非常に活動に有効であった。そればかりでなくパソコン通信によりAMDAメンバー以外の一般の会員への活動報告、ボランティアの呼びかけは、今までAMDAが経験し得なかったほどの大きな反響があった。

それ以降AMDAは、情報発信、情報獲得の手段としてコンピュータネットワークの重要性を自覚し、研究を重ねていった。

Internetは、そのころは、理系の大学の研究者の間ではすでに良く知られた優れたコンピュータネットワークであったが、非常に閉鎖的な環境であったため、AMDAのInternet接続は、非常に困難をきわめた。具体的には、

(1) 金銭上の原因-その当時、Internetに接続するためには非常に高価なコンピュータまた、通信設備が必要であった。

(2) 技術的な困難-その当時、Internet接続に対する指導書は大変少なく、またそのどれもが、「コンピュータ技術者」向きに書かれているものであったため技術的に非常に困難であった。

(3) 社会的原因-その当時、Internetは民間で使用するには非常に高価であり、現実的にはすべて文部省管轄の組織と接続することになっていた。

文部省と深いつながりのないＡＭＤＡの様な機関には、接続の便宜はなかなか与えられなかった。

以上のような困難があったが、下記の理由でAMDAにはInternetサーバは必要不可欠であるという結論に達した。

(1) 「世界中」がAMDAの活動範囲である。各地に拡がるフィールドで、Internetという普遍的な情報ネットワークに常時接続しているということは、AMDAスタッフの安全かつ有効な活動に必要不可欠である。

(2) AMDAの活動記録を世界中の誰もがどこでもいち早く同時に閲覧できるというのは、Internetの大きな利点であり、AMDAの今後の活動ならびに支援して下さる方との一体感を深めるために有効である。

2. AMDA Internet Stationの活躍

サハリン大地震、またそれ以降の緊急救援活動では、情報収集、現地との連絡、活動報告のいずれの時期をとっても、InternetはAMDAの活動には欠かせないものとなっている。またAMDA学術委員会が作成した「熱帯医学データベース」は、数少ない「日本語で書かれた」熱帯医学に関するデータベースであり、医学者のみならず、臨床医家、また国際空港などでも有効に活動されている。

これらのメンテナンスは、岡山理科大学の方を中心とした「情報ボランティア」で行われている。

3. AMDA Internet Stationの今後

現在のInternetの盛況ぶりは、AMDAがInternet接続を開始した時とは隔世の感がある。Internet上でのテレビ会議、ショッピング、お見合等々、すべからく人間の行う諸々のことがすでに行われていたり、実験が試されている。

今後Internetがどう発展していくかは、未知であるが重要性はどんどん増していくと考えられることは論を持たない。AMDAでは、情報通信委員会を中心に、学術委員会、広報部等と連携を取り、今後ともNGOにおける情報通信の有効利用を更に研究し、深化発展を行う所存である。

産経新聞　平成10年(1998年)4月19日　日曜日

<第三種郵便物認可>

早い時期の開設協力ありがとう

AMDAのHP

アクセス月に10万件

岡山市に本部を置く医療NGOのAMDA（アジア医師連絡協議会）が、平成七年から開いているホームページの月平均のアクセス件数が十万件を突破。十八日、岡山市楢津のすこやか苑で、ホームページ開設に寄与した岡山後楽ライオンズクラブと岡山理科大学インターネットクラブにAMDAから感謝状が贈られた。

AMDAは平成七年八月、インターネット上にホームページの開設を試みた。当時はまだ、インターネットという言葉が浸透していなかったころ。周辺機器や独自のホームページのラインを構築する費用として、岡山後楽ライオンズクラブが約四百五十万円を寄付。岡山大学医学部の学生だった中野知治AMDAニューメディア委員長がボランティアで作成にあたった。

また、平成八年十一月からは岡山理科大学総合情報学部数理情報学科の大西荘一助教授が顧問を務める同大学インターネットクラブの学生も参加。通信料金の安い深夜、自宅で改良を続け、現在のホームページの形を完成させた。その結果、アクセス件数は昨年十二月に十万件の大台にのり、さらに今年一月からは十二万件と増え続けている。

ホームページには、海外で救援活動に従事したスタッフの現地報告、広報誌の掲載、AMDAへの意見募集などを掲示。日本語と英語表示の選択ができる。特に人気が高いのは熱帯病に関するデータベース。疾病状況や専門医師の紹介などがあり、医療関係者を中心にアクセスが多いという。

月に10万件のアクセスがあるAMDAのホームページ

岡山後楽LCと岡山理大インターネットクラブに感謝状

感謝状を贈られた清水直樹副会長（左）と岡山理大の学生たち（後列）

贈呈式には、それぞれの代表が出席。中野委員長が「インターネットはまだ、一部の研究者のものだったが、皆さんの協力のもと、早い時期から情報発信をできたのは幸いです」とあいさつ。それぞれの代表に感謝状が贈られた。清水直樹岡山後楽ライオンズクラブ副会長は「クラブの三十五周年記念として寄贈しました。数多くの人にインターネットが見られ、役に立っているのは喜びです」。岡山理科大学インターネットクラブの吉川弘一さん(三)は「自分たちの勉強だと思ってメンテナンスをしてきた。後輩にも引き継いでいき、百万件を突破できるようになれば」と話していた。

4. 謝辞

後楽ライオンズクラブ 河合道雄様、大谷健三様、NEC岡山支店　沖津和宏様、NECソフトウェア岡山 岩谷きよみ様その他の方々の有形無形のご協力なしではAMDA Internet Stationを開始することもできませんでした。Internetというものがまだまだ世の中に広く知られていなかった頃に、Internetという情報発信の手段の先見性を熟知され、AMDAのサーバー機導入にご尽力して下さったこれらの方々に深く感謝いたします。

1998年4月18日

きっかけ

三洋コンピュータ（株）晴れの国ネット
鹿嶋 小緒里

いろいろな物事にはきっかけというものがとても重要であります。私個人においてもたくさんのきっかけを通して今の私の活動があり、自分自身があります。私がまだAMDAをテレビでしか知らなかったとき、AMDAが主催するワークショップに参加させていただいたことがあります。そこで聞いたお話が私のボランティア活動に対する考えを大きく変え、人生を深く考えるきっかけとなりました。

“「私になにができますか？」ではなく「私にはこれができます」と言ってボランティアに参加してください”この言葉は、ワークショップでの中田武仁氏のお言葉でした。この一言により、初めてボランティアというものを具体的に考えるようになりました。

晴れの国ネットのスタッフと　中央筆者

“私にはこれができます”と言うのは簡単そうに見えますが、とても難しいものでありました。現在の自分になにができるかなんて、世界はなにを必要としているかを知らないとなかなかこの言葉は言い出せませんでした。そこで私は第２のきっかけ岡山理科大学インターネットクラブが行うAMDAのホームページ作成支援活動に出会いました。週に一度ミーティングを本部の竹林さんと行い、各自宅でWEBページを作成しています。ただ漠然とボランティアがしたいと思っていた中、自分の専門分野であるコンピュータを使ってボランティア活動ができるという発見は大きいものでありました。この第２のきっかけから、第３、第４と続いていき、果てにはカンボジアまで行けることになりました。

カンボジアでは昨年12月に行われたアンコールワット国際ハーフマラソンを衛星を使用したインターネットで静止画中継するお手伝いを行いました。地雷被災者支援を大会目的とするこのマラソンをWEB上で中継することにより、多くの方に地雷の悲惨さを知ってもらい、また共に考える目的で中継を行いました。この経験で多くの大会関係者の方のすばらしい活動を実際に目にすることができ、またカンボジアの現状というものもこの目で見ることができました。ポルポト政権下の虐殺は過去の事実として語られがちですが、カンボジアではまだ過去の痛みではなく現在も続いている痛みであります。大量虐殺の行われたツールスレン刑務所では多くの犠牲者の写真に出会いました。その部屋は、声にならない言葉で満ち溢れていました。外の明るさだけが妙にまぶしく、帰りのバスの中から見えるノーヘルでバイクに乗っている現地の方の背中がたくましく、ただ涙だけがとまりませんでした。

今まで多くのきっかけが私を変えてきました。そのきっかけは人であり、言葉であり、活動でありました。１ヶ月のヒット数が10万件を超えるAMDAのホームページにより、多くの方にほんのささやかでもボランティア活動を行うきっかけ、また国際貢献について考えるきっかけとなればと思います。ある方が”知ることからすべてが始まる”と教えてくださいました。まず知ることにより、多くの選択肢が増え、おのずから自分の進むべき道が見えてくると思います。私も今後も多くのすばらしいきっかけに出会いたいです。

この４月より、私が入社いたしました三洋コンピュータ晴れの国ネットが新規インターネット会員の皆様の登録費の一部をAMDAへ寄付させていただく事になりました。まだまだ金額的には少ないのですが、この小さなステップを大きなステップへと成長させようと社員一同がんばっております。これからますます、企業・ＮＧＯ団体・医療団体など様々な各種団体が連帯してネットワークを作り、人のネットワークもインターネットのように全世界へと広がっていく事と思います。

AMDAプロジェクト広報活動報告

AMDAでは、できるだけ多くの皆さんに活動内容を、また広義には、ＮＧＯの活動を理解して頂こうと、AMDA主催以外の様々のイベントにも参加しています。ボランティアの方々や、AMDA高校生会のメンバーの協力も得て、パネル展、マスコミのインタビュー等で積極的に広報活動を行っています。

第１回　岡山県産業教育フェアー

FUKUOKA　よかよか国際市民フェスティバル

『FUKUOKAよかよか国際市民フェスティバル』に参加

（財）福岡県国際交センターと（財）福岡国際交流協会との共催で、平成９年１２月６日、７日に『FUKUOKAよかよか国際市民フェスティバル』が開催された。より多くの人々に国際理解を深めてもらおうと、世界を歩き回った体験者による「楽しい国際理解トーク『世界・何でも見てある記』」や「座談会『地球人のための座談会』」が行われると同時に、国際交流・国際協力などを行っているNGOや市民団体によるパネル展等が行われた。AMDAからも座談会にパネリストとして山本秀樹副代表が出席し、パネル展のAMDAコーナーにはボランティアの井口恵子さんが参加した。

座談会『世界を語ろう！地球人のための座談会』の一部を紹介します。

司会　国際化が進む今日、私たちはいろいろな考えをもった世界の人々と共にいきていかなければなりません。そのためにはどうすればよいのか。考えてみたいと思います。

薮野（薮野祐三氏：コーディネーター　九州大学法学部教授）　「国際交流」「国際協力」という言葉がありますが、交流と協力では中身が全く違います。３年ほど前まで協力は外務省、交流は自治体と決まっていましたが、現在は自治体も交流から協力へというのが流れです。交流で親しくなったら、何か協力したいと思うでしょう。この座談会で協力の方向を見つけたいですね。

三木（三木達也氏：パネリスト　外務省大臣官房国内広報課）　国際化が進むと、国レベルでは対応できない問題がたくさんでてきています。そこで地方自治体、民間企業、個人が対外的に関心を持ち、それぞれのレベルで国際化に貢献していただくことが

重要で、交流や協力の幅が広がることは、日本にとって大変望ましい、外交的資産だと言えます。外務省としても地方自治体や民間団体の国際交流、国際協力を支援しています。現在のような経済状況の下では、財政面では十分な支援はできませんが、ソフト面の相談などでお役に立ちたいと思っています。

世の中の動きをいかに自分たちの問題として取り組むかが、大切です。国際交流において、異文化を理解するためには、まず相手を知り、自分を知り、自己表現しなければなりません。ぜひ国際交流に主体的に係わってほしいと思います。

薮野　AMDAでは医療を通して途上国で援助活動を続けておられますが、援助には総合的なシステムが必要だと思いますが。

山本（山本秀樹氏：パネリスト　AMDA副代表）

AMDAでは現地とのネットワークづくりに力を入れています。現地の状況が分からないと、何をするにも大変です。困ったときはお互い様、相互扶助の精神で現地とのパートナーシップを結び、それが円滑な救援活動につながっています。

三木　日本の場合、組織化された市民運動がもっと力を持つべきです。そうすれば、政府や自治体の動きなどに関心を持ち、活動を通してより身近な問題に貢献していけるようになる。市民がより豊かな、夢ある２１世紀の社会をつくるため、自分たちの問題として活動していく方向に向うでしょう。主体的に活動してほしいと思います。

ユ　（ユ　ファ　ジュン氏：パネリスト　玄海人クラブ、韓国文化交流センター代表）　地方の時代と言われていますが、これからは地方が独自に国際交流をやらなければいけません。しかし、どこの役所でも外国語を話せる人を専属にする予算はないはず。ノウハウをもつ団体と常に連携プレーをとるべきです。この条件整備ができるかできないか、それが地域発展の分かれ目だと思います。私はこれまで、「民間だから行政には頼らない。何の援助も受けずにやっていく」とつっぱっていました。でも１年の活動を通してたくさんのことを学び、やはり協力しなければ効率や効果が上がらないことが分かりました。財政面だけでなく、本当の意味でのノウハウを広めるためにも、今後は行政とＮＧＯの連携が必要だと思います。

山本　国の権力だけで物事が解決できるかというと、非常に難しい。例えば、国連安全保障理事会は拒否権でもめていますし、地球温暖化防止会議では国益同士のぶつかりあいで、まとまるのは難しいと思われます。国の政策にとらわれない団体間で何かできないか、特に人道援助団体が岡山県に集結できないかと思って、NGOサミットを開催することになったのです。環境、教育、保健医療など、毎年テーマを決めて世界各地のNGOと話し合います。NGOだけでなく、宗教団体も対象としています。本来宗教は人類の幸福や魂の救済を行うものですが、イスラム原理主義のテロなど今日ではさまざまな政治問題にまで及んでいます。そこで、宗教団体にも参加を呼びかけています。

国内はジャナン（JANAN：日本NGO・NPO連絡協議会）という団体があります。行政とＮＧＯの連携に関する団体です。ただこれは難しい面があって、会合を開くにしても自治体は公務として行うため平日を希望し、ボランティア団体は土日にしてほしいと言う。お互いにスタンスが違うため、このような食い違いは仕方ありませんが、今後、話し合いで相互理解は可能だと思います。これからは、NGO同士プラス地方自治体で、地方発の国際貢献を目指し、連携がすすんでいくのではないかと期待しています。

薮野　私の好きなキャッチフレーズは「偏人主義をやめよう」です。偏食すると病気になるのと同じように、偏った運動、偏った考えを持つと、全体が見えなくなってしまう。これはボランティアやＮＧＯにも言えることです。ですから、バラエティーに富んだ人と話し合うことが大切だと思います。

私は一介の教師ですが、外務省、玄海人、お医者さんと、偏人主義をやめる４人が集まったことに、最大の意義を持ちたいと思います。

（FUKUOKA INTERNATIONAL EXCHAGE FOUNDATION NO. 2より一部抜粋）

AMDA高校生会
ネパール障害児学校・ウガンダ子ども病院建設支援キャンペーン

AMDA高校生会は4月18、19日に、1998年岡山桃太郎まつりにAMDAスタッフとともに参加して、高校生会が支援しているネパール子ども病院付属障害児学校建設プロジェクトの紹介パネル展と募金活動を行った。岡山の皆さんにネパールの現状と障害児学校の必要性を知ってもらおうと、高校生会メンバーは学校帰りにAMDA本部に集まり（火・金曜日に集まっている）、何日も掛けてネパールの医師・ニルマル氏よりアドバイスを受けながらパネルを作成し、パネル展の準備を行った。

山陽新聞（夕刊）
1998年(平成10年)4月16日

ニルマルさんから写真の説明を受ける高校生ら＝AMDA本部

また、5月5日にはAMDAのアフリカプロジェクトを支援したいという、岡山の舞踊劇団・秘宝館昇天堂一座の申し出を受けて、高校生会もウガンダ子ども病院建設プロジェクト（アフリカ中部のウガンダは、1982年以来、HIVの感染が拡大し、現在の患者数は大多数にのぼっている。特に感染児の死亡率が非常に高くなっている。このためAMDAでは子ども病院建設の計画をすすめ、1998年2月には首都カンパラに隣接するムコノ県から、建設用地の寄贈を受けている。病院では子どもを中心とした治療の他、予防教育、さらにはこの病院で活動できる現地の医師や看護婦（士）の養成も行う予定である）のパネル展を行った。

『チャリティーパフォーマンス　歌舞の宴　ウガンダに子ども病院を！』と題した昇天堂の公演では、踊りの中に募金箱などを持ち込んで、ウガンダ支援を訴えたパフォーマンス（ウガンダでは、100円で総合ビタミン剤が200錠、400円で注射器と針が3セット、500円で抗生物質が350錠を買うことができるという、現地での100円パワーを表現した。）も盛り込まれていた。フィナーレでは高校生会のメンバーも踊りに加わって、踊りながらの募金活動を行った。

ウガンダ子供病院設立呼び掛け踊り
しろちかで市内アマ劇団

山陽新聞
1998年(平成10年)5月7日　木曜日

ウガンダへの子供病院設立支援を呼び掛ける「しろちかコンサート」（しろちか利用促進協議会主催）が五日、表町の城下地下広場・しろちかで開かれ、買い物客ら約三百人が踊り、歌などを楽しんだ。

同病院設立チャリティー特別パフォーマンス歌舞の宴〝98と題して、市内の会社員らでつくるアマチュア劇団・秘宝館昇天堂一座がおてもやんなど歌に合わせてオリジナルの踊りを披露。県内の和太鼓愛好家らでつくるグループ・ビゼン鼓空による太鼓演奏などもあり、観客から盛んに拍手が起こっていた。

会場の一角にはAMDA（アジア医師連絡協議会）のウガンダでの医療、教育の支援活動などを、写真を交えて紹介したパネル約二十枚を展示。AMDA職員、高校生会のメンバー約二十人が募金活動も行い、通り掛かった主婦らが次々と募金していた。浄財はAMDAを通じて、ウガンダ子供病院設立のために使われる。

会場を訪れていた公務員後藤臣一さん(60)＝今＝は「踊りも音楽もユニークで楽しめた。またウガンダの医療器具などが不足している状況もパネルを見て初めて知り、協力したいと思う」と話していた。

ウガンダへの子供病院設立支援を呼び掛けたしろちかコンサート＝表町の城下地下広場・しろちか

AMDAの活動へのご寄付をお願いいたします

本誌カラーページおよびAMDAプロジェクト特集のページで紹介しましたとおり、今年度もアジア・アフリカ・南アメリカでさまざまなプロジェクトを展開していく予定です。
各々のプロジェクトのさらなる充実のために皆様からのご支援をお待ちしております。

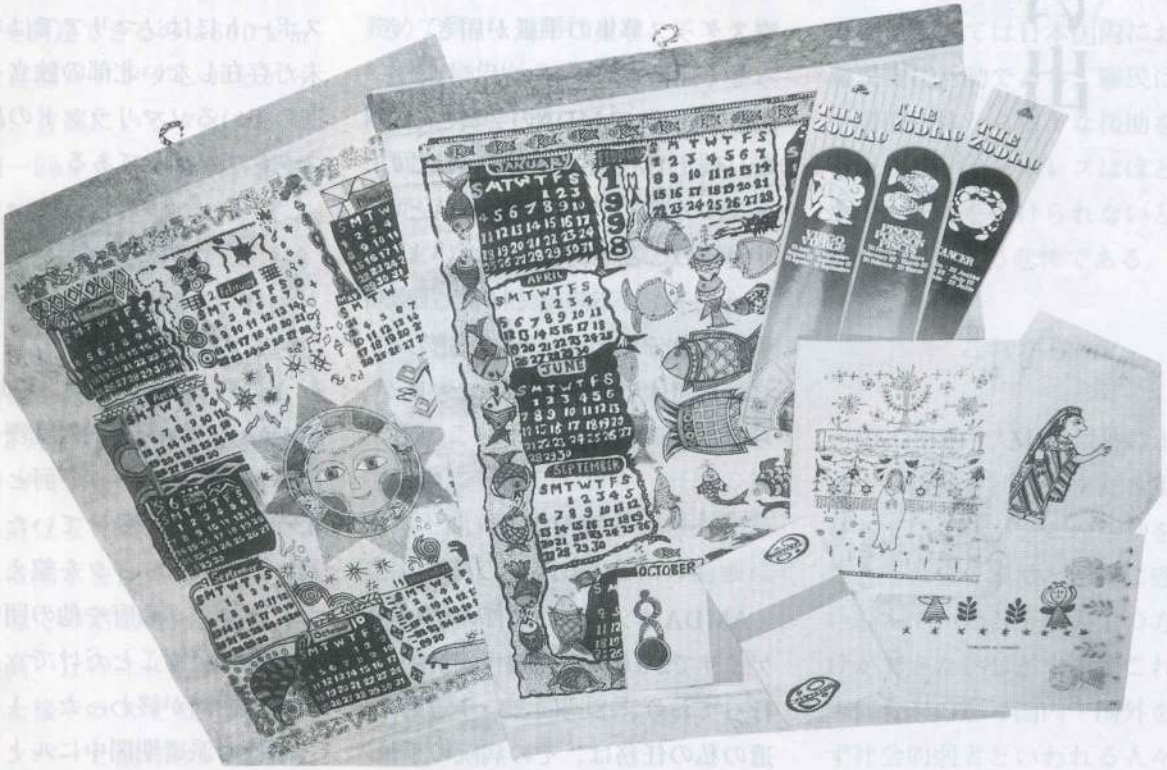
AMDAは皆様からの善意を大きな国際協力の力として、世界の発展途上国の人々にお届けします。

皆様からのご寄付は、AMDAの活動全般に対しての一般寄付と、各々の国、およびプロジェクトに対しての○○○指定寄付（例：ネパール子ども病院建設プロジェクト指定）としてお受けしております。一般寄付か、○○○指定寄付を明記のうえ、本誌綴じ込みの郵便振替用紙をご利用下さい。
どうぞよろしくお願いいたします。

AMDAグッズ紹介

■AMDAテレフォンカード（50度数）1枚　1,000円
送料　2枚まで80円　3枚から無料
■AMDA　Tシャツ　Lサイズのみ　1枚　1,900円
送料　1枚300円　2枚400円　3枚以上無料
■「自立支援プロジェクト」支援グッズ

カレンダー		1枚	800円
レターセット	封筒	1セット10枚	200円
	便箋	1セット15枚	300円
THE ZODIAC	お香	1セット	400円



＊『AMDAの自立支援プロジェクト』支援のためのカレンダー、レターセット、星座別お香も販売を始めましたいずれもネパールで作成されたものです。
AMDAグッズご購入の際にも、上記郵便振替用紙をご利用下さい（目的要明記）。

大脇甲哉のクローズアップ

AMDAの思い出

AMDAとの出会い

92年12月 国連多国籍軍のソマリア上陸のニュースが毎日マスコミを賑わしていた時、飢餓に苦しむ難民の姿も同時に報道されていた時、なぜか無性にアフリカに行ってみたくなった。それまで国際協力活動やNGOとは縁のない世界にいた普通の整形外科医であったが、93年1月 偶然職場の同僚宛にAMDAの副代表だった国井修氏からソマリア救援活動に派遣する医療スタッフ募集の手紙が届き、さっそく連絡をしてソマリア行きを決め、同時にAMDAの会員となった。私とAMDAとの出会いはこのように突然と、そしてAMDAという組織のことも何も知らないままに始まった。不謹慎ではあるが要するに自分をアフリカに派遣してくれる団体であればどこでも良かった。

ソマリア

AMDAはソマリア北部の街ハルゲイサで200床の病院再建活動を行っており、2週間という短期派遣の私の任務は、その病院の手術室の設備や機械類の調査を行い、何を支援すれば限られた予算の中でいかに有効に手術室が稼働するかを本部に報告することであった。一日中手術室にこもって手術器具の写真をすべて撮りそれぞれの器具が使用可能な状態にあるかどうかをメモしていった。銃で撃たれたり、地雷で足をとばされて入院している患者が多く外科と整形外科の入院患者のうち銃が原因のものが40%、地雷によるものが4%だった。私の海外活動はその後も年休を利用した短期のものばかりであり、短期なりの仕事を与えていただいた本部や、わがままを聞いてくださり留守の間自分の仕事を補佐してくださった愛知国際病院のスタッフに感謝します。ソマリアは現在も内戦が治まらず無政府状態のままであることがとても残念である。ちなみに私のパスポートにはソマリアではなく、未だ存在しない北部の独立を押し進めているソマリランドの出入国スタンプが押してある。

ルワンダ

94年9月 突然本部からルワンダ行きの打診があった。現地ではAMDAのメンバー内の軋轢や、他団体との摩擦もあり、何とかするようにと指示を受けていた。メンバーのチームワークを整えることと、ルワンダ政府や他の団体の信頼を取り戻すことだけで、1回目の派遣期間が終わった。1カ月後2回目の派遣期間中にルトンドヘルスセンターでの活動を開始する事ができ、その後日本から執行部として後方支援をすることになっ

1994年　ソマリアハルゲイサにて　ダイレクター　ラザックとUNHCR関係者と共に

た。このプロジェクトではいろいろな方にお世話になったが特にザイールの森でゴリラの生態調査をされていた京都大学霊長類研究所の山極氏には家や車を貸していただいた。またアラコ株式会社とトヨタ自動車株式会社からランドクルーザーを寄付していただいた。改めて感謝いたします。

アンゴラ

95年11月 アンゴラの反政府ゲリラの支配地域で援助団体として初めてAMDAが活動を開始した。サンザポンボという地方の診療所での活動だったが、物資や食料を調達できるのは600ｋｍ離れた首都ルアンダしかなかったため、首都にいるダイレクターが週一回６人分の食料・飲料水・医療資材を運ばなければならず活動は困難をきわめた。診療活動を継続しつつ病院再建を行い１年後に再建は完了し現在まで活動を続けている。私は、95年12月活動のたち上げの時期にサンザポンボに入った。電気・水道はなく炊事・トイレに使う水は雨水を使っていた。苦しい環境での活動だったが、宿舎が小高い丘の上にあり仕事が終わった後テラスでビールを片手にメンバーと語り合いながら眺めた地平線に沈む夕陽の美しさが忘れられない思い出である。

東　京

96年９月 東京に移り住み勤務の都合上海外活動ができなくなり、東京オフィスで毎月国際医療協力研究会を担当することになった。

ＡＭＤＡのプロジェクトや他のNGO、国連機関の担当者に講師を務めて貰い17回行った。アフリカの活動報告が７講演、アジアが７回、ロシア・旧ユーゴスラビア各１回、国連ボランティア計画の講演が１回である。内容は主に開発型のプロジェクトを選び、住民の健康問題の根底にある「貧困」についてどう対応するかを研究会のテーマとした。

私はこれまで紛争直後の緊急救援活動に参加しており、経験の無かった開発協力活動の方法や問題点を知ることができ非常に勉強になった。

ホームレス

ソマリアの難民救援活動から帰国後愛知国際病院のスタッフに誘われて名古屋市の「寄せ場」である笹島に集まる野宿労働者の医療相談を９４年から始めた。東京に移ってからも新宿で同じ活動を続けている。初めて彼らに接したとき日本国内にも難民と同じ、否より悲惨な生活を強いられている人々がいることを知りショックを受けた。あえて誤解を恐れずに言えば私にとっては日本国内における難民支援活動である。難民は国連や援助団体から様々な援助を受けられるが、ホームレスはほとんど公的な支援を受けられないという点では難民より悲惨である。

これから

NGO活動・AMDA以外のボランティア活動を初めてまだ５年しか経っていないが、この活動を始めて、それまで漠然と不安に感じ迷い悩んでいた自分の人生の方向付けができた感じがする。これからも何らかの形で国内・国外を問わず社会的弱者といわれる人々に対する活動を続けるつもりである。いろいろお世話になりました。５年間ありがとうございました。

国際協力ネットワークセミナー広島（JANAN設立記念フォーラム）にコメンテーターとして参加された　外務省経済協力局政策課長　目賀田周一郎氏のお話をダイジェストで紹介いたします。

JANANフォーラム

ダイジェスト

国民参加型ＯＤＡ

外務省経済協力局政策課長
目賀田周一郎

外務省のＯＤＡの事業において、特にNGOとの関係を非常に重視してきております。そもそもODAというと、よく、無駄があるとか、上手くいっていないというマイナスイメージが先行する傾向がありますが、ODA事業の内の大半は上手くいっているのです。対外的に上手くいかないケースがややもするとマスコミにとりあげられ、大きく報道されODA全体像が正しく評価されていない傾向にあります。例えばODAというのは行政政策分野の中で非常に先進的な分野であるということも必ずしも知られていないのではないかと思います。具体的には情報公開とか事前調査、あるいは事後的な評価の徹底といった面で様々な努力を行っておりますが、このようなODAの経験は、今後、日本の国内行政の他の分野でも役に立つものと考えております。そういった一つの典型例がNGOとの関係です。NGOとの交流は1989年以来、NGO事業補助金という制度を設けて、NGOの活力といったものを活用してきております。また、ここ２年ぐらいは外務省とNGOの代表の方々との定期的な連絡会というのを開いております。

現在NGOと連携した事業として３つの形態があります。

１つはＮＧＯ事業補助金制度です。これは日本のNGOが国際協力を行う場合、その事業費の一部を支援するものです。96年度の実績では８億円です。

２つめは草の根無償援助というのがあります。これは途上国で活動しているNGOに日本大使館を通じて、そのプロジェクトの費用を提供するものです。途上国で活動基盤を持つＮＧＯであれば外国のNGOでも、また日本のNGOでも対象となります。

３つめは技術協力です。技術協力を行っているJICA（国際協力事業団）では、技術協力を行う場合の人材、あるいはノウハウをNGOから提供して頂くという協力関係が既に存在しております。

今後のODAのあり方の中で、我々はさらにNGOとの協力関係を深め、またNGOにもっと活躍していただき、21世紀に向けてODAを改革しなければならないと考えています。内外の状況の変化が今改めてODAの意義やあり方の見直しを求めています。まず国内的には財政構造改革に協力をしなければいけません。ODA予算も一般会計予算で10年度マイナス10％ということになってしまっております。そして次の年度もさらに引き下げが決まっているわけです。他方で、海外では日本の援助に対する途上国の期待やニーズというものは、むしろ逆に高まる傾向にあるのです。そしてODA事業のあり方も国際的な環境とともに非常に変化してきています。政治的にも冷戦終了後、旧ソ連諸国など市場経済化を目指す新たな援助受取国が出現しました。またカンボジア問題など冷戦を背景とした国際紛争の多くは終了しましたが、他方地域的な民族紛争などが顕在化する傾向にあり、このため復興援助や人道援助のニーズが増大しました。また、もう一つはボーダレス化、あるいはグローバリゼイション、経済活動が自由化の流れの中で、逆に貧困、富の遍在というか所得の格差は国際的にもあるいは個々の途上国の中においても広がる傾向にあります。更に地球的な規模の問題、環境問題も存在してきています。地球温暖化とか、酸性雨、あるいは廃棄物処理、海洋汚染など自然保護の問題、あるいはエイズ問題なども含まれます。予算を削った一方でニーズは増える一方という現状なのです。限られた財

源でどうすれば良い援助ができるのか、これがODA改革の背景にあるわけです。

我々、NGOに期待するところは２つの面がありまして、いずれも広い意味での国民参加の観点から重要だと考えています。

１つはやはり国民の税金を主として財源に使うこのODA事業は、国民の皆さんに理解して頂き、支持して頂く必要があります。そのためには、能力と意欲のある方にはどんどん参加できる開かれたODAである必要があります。途上国の必要としているニーズ、技術とかノウハウなどに関しては、日本国民、皆さんのなかに適任者がたくさんいらっしゃる場合があるし、適正な技術もありますので、どんどん提供して頂きたいと思います。国民の支持、参加を得ることがODAの質を高めることにも繋がるのです。こう言った意味でもNGOは途上国のニーズに木目細かく対応できる人材の宝庫であるといえるのではないかと思います。

２つ目は政府ベースの国際協力事業団（JICA）を通じた協力との連携です。つまり相手国の開発計画全体から始めて、だんだん絞り込んでいくという、非常に計画的に進めていく政府ベースの協力のやり方と、NGOやあるいは地方自治体の協力など草の根レベルで進めていく持続性のある活動が組み合わされば、非常に効果的であると思います。また一つの方向性としてはプロジェクトの一括委託方式の採用といったものが提言され、JICAにおいて給付されています。これはいわば、政府が御膳立てしていたプロジェクトや、場合によってはNGOや地方公共団体、あるいは大学などの提案したプロジェクトについても適当な団体にその実施を一括して委託する方式です。政府としてはそれを側面支援あるいはモニターする、そういうことができればJICA事業もいろいろな面で効率化できるのではないかと考えます。

いわゆる開発援助、途上国の開発理念というのも、この20年前と比べますと、大きく変わっております。当時日本の援助の量は今の10分の１でしたが、当時はやはり成長率重視ということで、いろんな開発成果というものもどの位の成長率を達成したかというようなところで評価されていました。今はその開発に住民が参加しているかどうか、女性の地位が考慮されているか、民主化に寄与しているか、あるいは環境を破壊していないかと、いろんな面で合格しないと成功した開発とは見られません。人間中心の開発といった考え方が、今や開発の中心的な概念になりつつあるなど、ODAのあり方事態も大幅な変革を遂げている中で、NGOの役割がますます必要とされてきているわけです。日本のNGOもそのおかれている状況は様々でしょうが、このような期待に応えて体制の強化や活動基盤の拡充に努力されることを希望します。

最後に、私が一番好きな表現に「ODAは国際社会で、日本という国と国民を映し出す鏡である」というのがあります。ODAを巡って論ぜられているいろんな問題というのは、まさに今の日本の現状を映し出している面があるのではないでしょうか。あるいは日本という国が国際社会でどの様に見られているか、どの様な地位を占めているか、こういったこともODAを通じて非常によく分かるのです。この途上国支援の分野にNGOがより積極的に乗り出されるということも、まさに日本の国内での社会のあり方を映し出している一つの現象ではないか考えている次第です。

日本ＮＧＯ／ＮＰＯ協議会とは

JAPAN ASSOCIATION OF NGOS AND NPOS

略称：janan／ジャナン

●

JANANは、21世紀の新たな地域社会を創造するためのアクション・ネットワークとして、NGO／NPO、企業、大学、自治体、政府機関等の活力の向上と結集を図り、「地域おこしと国際貢献」を推進していきます。

JANAN　および　入会手続き等については、下記までお問い合わせ下さい。

広島県　国際交流課
〒730－8511　広島市中区基町10-52
TEL：０８２－２２８－２１１１（内線２６４３）
FAX：０８２－２２８－１６１４

学校

国際理解教育をすすめる集会活動と支援活動

岡山市立開成小学校（校長　入倉妙子）

アースデイ集会

4月22日のアースデイに合わせて、毎年地球環境を守るための集会活動をしている。本年度は「開成小から発信。手をつなごう、この大切な地球を未来に残すために」をテーマにした。

ネパール（マルシン・カルキさんとニルマル・リーマルさん）、バングラデシュ（アティク・ラマさん）、オーストラリア（アンドリュー・チャップマンさんとマーク・ジョンズさん）、カナダ（レベッカ・モリスさん）、アメリカ（ディレックポール・ウイグレイさん）の方々を招待して、本校の児童会の代表たちによって、環境についてのパネルディスカッションをした。

アースデイ集会

どの国においても環境問題は深刻な状態であるが、国の政策により国民の意識にかなりの違いがあることに気づいた。

ネパールやバングラデシュでは、水と空気に関心が深く、オーストラリア・ニュージーランドはごみ問題を深刻に考えている。カナダの方は森林の伐採について大変な心配をしている。これから先も増加するであろう紙資源の欠乏にどのように対応したらよいか、小学生の考えもまじえて活発な意見を交換した。

海水の汚染と砂漠化についても、深刻な話題が続いた。酸性雨・地球の温暖化等どこの国も現在の環境を守ろうとする意識の高いことがよく分かった。

「地球を守るお手伝い、小さな私もできるはず」会場に揚げている児童の標語も大きな意味を持って迫ってきた。

この集会から「山に木を植えよう」の活動につながり、例年実施している「県モデル林に植樹をする活動」が展開されている。

開成ふれあいフェスタ

平成9年12月5日開成小学校の児童祭である。日頃から考えていた出し物を準備して、地域の方々や外国の人々に参加していただき、

環境標語

共に楽しむ集会である。

本校の5年生は学校園で田植えから稲刈りまでの一連の体験活動をして収穫したもち米を餅につきあげる。地域のお年寄り、スポーツ少年団の指導者、体育協議会の方々の応援を得て、約2俵の米を餅にした。

参加された方々はニュージーランド（ケビン・ハトフィールドさん）、USA（デビット・リーチさんとシャノン・ディズニーさん）、カナダ（フィリップ・コディエーさん）、ネパール（ニルマル・リーマルさんとマルシン・カルキさん）

つきあげた餅はみんなで食べたり、持ち帰ったりした。その他老人ホームに贈ったり、地域の敬老会を通してご老人に「優しい気餅」とネーミングしてお渡しした。これは好評で、お年寄りの方から感謝のお手紙を多くいただいている。

また、外国の方々から珍しいお餅の食べ方を聞くことができたのも収穫である。

ネパール支援バザー

平成8年度と平成9年度に2回だけであるが、ネパール支援バザーをしている。

ネパールの風景写真や生活のパネルを掲示して、簡単な日用品を販売する。これは児童の募金活動とあいまって好成果をあげている。

このバザーをすることにより、児童だけでなく保護者の意識も高まり、国際貢献としては頼もしい活動となっている。

イラン支援活動

ルワンダ難民の話を三宅医師から聞いたりイランの震災の状況を聞き、児童の支援活動の意識が高まった。

本校児童は平成6年1月17日の阪神大震災の時、いち早く募金活動を始めて感謝状をいただいており、支援活動には経験もある。

この経験を生かして「ジュースを一本倹約しよう」の合い言葉で募金を始めた。

平成9年4月　AMDAを通して義援金をお渡しできたことは児童にとっては大きな喜びとなった。

本校の国際交流と国際貢献活動は姉妹校縁組みをしたネパールを端緒に児童の意識は次第に向上している。

おみやげ・喫茶・お食事
岡山駅名店街
ピーチプラザ
岡山駅2F 新幹線改札口前

地域

国づくりは人づくりから

高知ラオス会

アジアの国々との国際協力を目的に、特にアジアでは最貧国といわれるラオスでの小学校建設を支援しようとして設立された高知ラオス会。高知県出身の和田駐ラオス大使や、JICAの元専門家グループの呼びかけのもと、学校や地域の人々の協力を得て、高知ラオス会の活動を大きく広げていかれました。

JICAとの連携は、現地の情報が収集しやすく、また連絡等もとりやすく、小学校建設のプロジェクトを進めていくうえで効果的だったそうです。

高知ラオス会発足5年目にして、4つの学校が完成し、支援をしてきた協力校の生徒や教師、PTA等が友好訪問団としてラオスを訪問し、完成した学校を訪れたり、現地の人々との交流を深めたり、ラオスの生活習慣等を視察することで今後の活動への布石とされました。

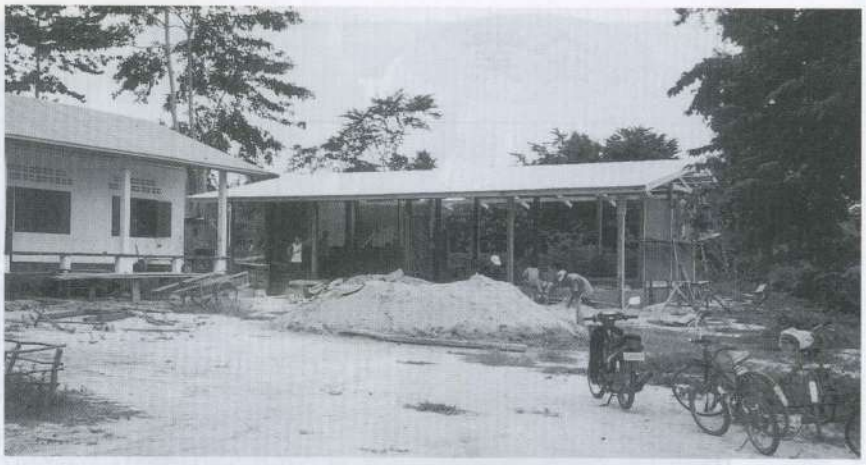
* * *

学校が出来るまで

（高知ラオス会友好の小学校ワークキャンプ報告書より）

高知ラオス会事務局長　倉橋　静雄

7人のグループがラオスの首都ビエンチャンを訪問したのは1994年5月9日連休の後半のことでした。ラオスが西側に門戸を解放し外国人の国内旅行も自由になりましたが国内の情報が全然聞こえてこないので興味深い訪問でした。今後の交流資料収集が目的で、これと決まったターゲットはありませんでした。浜田さん（現ラオス会会長）の友人である和田駐ラオス大使の歓迎の連絡を頂いていたので未知の国へきた緊張感はありませんでした。3日間の滞在で青年協力隊の活躍や日本の援助で出来た施設を視察し資料を収集しました。ビエンチャンを去る最後の夕食会の席でお世話になったお礼に高知から中古の救急車を贈る話がまとまりましたが、後日、大使からの連絡で日本製の右ハンドルの車は使用出来ない、雨季には四輪駆動でなければならない、それにタイ国よりすでに新車の救急車が贈られていて日本のNGOにしては格好がつかないなどいろいろの情報が寄せられ、危うく恥をかくところでした。援助の



内容には十分な時間をかけて調査をしなければならないことを学びました。

期待される援助は数多く有るのでラオス高知県友好の会でも作って、何か援助をして頂ければとたくさんの援助の例や現地行政機関の要望資料をいただきました。中でも国造りの基礎である人造り。小学校教育についてＮＧＯの協力をお願いしたいと強調されていました。ユニセフの資料では「1200ドルで学校が出来ますよ」と、狐に騙されたような感じでしたが、国連の機関であるので信用して、これなら私たちでも支援できると帰国後70日目に現在の高知ラオス会は発足しました。

８月１日に発足し高知新聞に浜田会長の談話を掲載して頂き広報活動を始めました。この時期、県内の学校は秋の文化祭行事の計画段階であった事も幸いして、追手前・横浜新町の各小学校、須崎中学校、高知商業高校で取り上げて頂き（10月２日）'94こうち国際交流フェアで広報活動を実施しました結果、学校建設の支援運動は県内に浸透しました。しかし1995年１月の阪神淡路大震災が発生し国内こぞって被災者の支援救済運動が行われ、その中では私たちの運動は継続出来ませんでした。

２月に入り高知県国際交流協会から学校建設と同時に子ども達の国際交流活動をも実施し交流事業に対する理解を深めようとする企画が提案されて、３月20日現地調査のため浜田会長と二人でビエンチャンにはいりました。土日の休日を利用して大使夫人に案内して頂いた国道13号線沿いを調査して選んだのがバンキー小学校とポングン小学校でした。こうして両事業を開始し、同時に満たされたことは皆さんのご支援の賜物だと感謝すると同時に厚く御礼申し上げます。

＊　＊　＊

このような段階を経て始まった高知ラオス会の活動は支援の輪をどんどん広げながら現在に至っています。次号ではこの高知ラオス会を支援している学校のユニークな支援の様子をご紹介します。

未来(あした)を考える
システムの包装商社

パステム マツザワ
〒791-8016 松山市久万の台689 TEL 089-925-7811

パステム オカヤマ
〒702-8048 岡山市福吉町18-7 TEL 086-263-5516

企業

リスナーとスタッフの想いをアジアへ

●中国放送福山放送局「いい朝」スタッフ

RCC（中国放送）福山放送局の看板番組「いい朝！」のスタッフの皆さんがAMDA高校生会の活動を支援して下さっています。そこで、RCC福山放送局ディレクターの林晶子さんにお話を伺ってきました。

Q1．まず、支援の内容をお話しして下さい。

A1．「いい朝！」スタッフ全員によるチャリティーオークションで集まった募金をアジアの恵まれない人々に役立てて貰おうということでAMDAに届けました。

昨年は地震で崩壊した中国雲南省の小学校再建に役立てて頂きました。今年も引き続きAMDA高校生会の活動に役立ててもらうことになりました。

AMDA事務局にて

Q2．チャリティーオークションの内容を具体的に教えて下さい。

A2．19名のスタッフ全員がそれぞれ作ったモノや企画をラジオで告知し、一番高値を付けて下さったリスナーに落札して頂き、お届けしました。

「結婚式の司会を引き受けます。」「昔懐かしい真空管ラジオを作りました。」

「自宅で丹精こめて作った梅で梅酒を作りました。」「元国体選手が体育会系仕込みのマッサージを中継します。」「一目一目に思いを込めたセーター」

「得意のノドと得意の技術力を活かしてオリジナルCD作成」「出前コンサート」等など・・・今回は19人で19万円にもなりました。リスナーとスタッフの想いの19万円ですからアジアで有意義に使って頂きたいと思っています。

Q3．面白いアイデアですが、どのようなキッカケで生まれたのですか？

A3．仕事だけでなく何か世の中の役に立つことをしたいなとスタッフの中から声が出ていました。お金の価値が日本とアジアではずいぶん違います。高額でなくても私たちががんばって集めたお金が有効に使ってもらえると考えました。

「年末の社会鍋」というのが頭に浮かんできました。でも、ただ募金をしてもらうのではなく、私たち集める側も募金して下さる側も楽しめる方法はないかしらと19名で知恵を絞って考え出しました。

Q４．実際にやってみて楽しかったこと、苦労されたことはありましたか？

Ａ４． まず苦労した点はリスナーに趣旨を理解して頂くことでした。AMDAの菅波代表は地元神辺の出身ですが、知る人ぞ知るという感じでしたので、第一回目をスタートするにあたり菅波代表に電話インタビューをしてリスナーに解って頂きました。おかげで第２回目の今年は「ああ、今年もやっているね。」という受け止め方をして頂いたようです。どちらかというと私たち自身が楽しんだ部分が多かったように思います。得意な分野（しゃべり）ではなく、セーターを編む、真空管ラジオを作る（スタッフに大好評の逸品でした。写真を撮っておけば良かったと今でも残念です。）、イラストを描く等、「チャレンジをする」という部分で楽しめました。また、「時間に追われながらもがんばったな」という充実感が残りました。最もスリルがあったのが、リスナーにいくらで落札されるかというところでした。私たちの予想を大幅に裏切って（？）高額で落札して頂いたり・・・。

第３回目を目指して今からアイデアを練っている仲間もいます。期待して下さいね。

＊キラキラと輝く目で次々とお話して下さる林さん、ラジオカーの仕事から帰って来られてすぐにお話に加わって下さった元気一杯の佐々木弘美さん、私たちも第３回目のチャリティーオークションには是非参加したいと思います。ありがとうございました。

（文責　藤井　逸子）

和・洋医学学術書専門

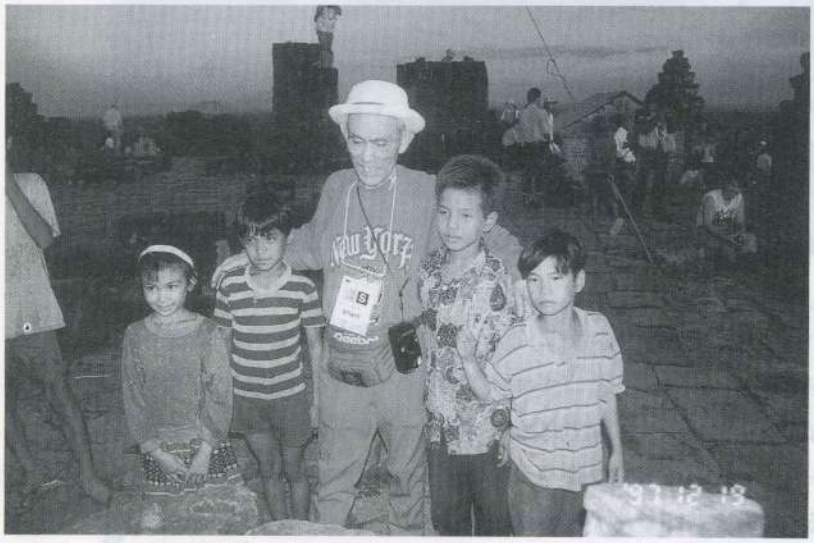
株式会社 神陵文庫 岡山営業所

岡山市大学町２丁目１５（岡大医学部附属病院正門前）
TEL(086)223－8387　FAX(086)222－5551

ひと

アンコールワット国際ハーフマラソンに参加して

財団法人岐阜県いきがい長寿財団　後藤　義夫



'97アンコールワット国際ハーフマラソンに参加して、この企画をされるまでには大変なご苦労があったと思う。平成８年12月、第１回に参加して現地を見て、日本の戦前戦後を思い出した。戦前戦後の経験者の一人として、78歳になる自分の現在の生活の豊かさをつくづく感じ、夢のような幸せに感謝して居ります。

カンボジア現地で国民の生活を思う時、大人も子ども達も国民の一人として生きて行くのに精一杯。それが日々の生活であるように思われ、命の尊さを間近に見て、今私たちに何が出来るかが大切な事だと思った。第１回はなんとなく終わったが、幸いにも第２回の大会（平成９年12月）にも参加する事が出来、少しでも子ども達が喜んでくれる様な物をと思い、絵はがきやバッジなどを持って行った。大会の前日と当日、大会本部スタート地点にて１人ひとりに手渡し、子ども達が喜んでくれた顔を見て、目頭があつくなるのを感じ、ささやかな物でも持って来てよかったと感じた。

遠く離れていても、前年出会った子ども達が忘れないで近付いて来てくれた。言葉はわからないが笑顔で合掌、思わず抱きしめて涙を流した。この喜びを与えてくれた子ども達との国際交流ができたことに感謝した。

競技の合間を縫って、人々の暮らしを見て回り、非常に貧しく、医療設備なども充分でなく、『たとえわずかな事でもよいから助けてあげたい』と言う気持ちにさせられた。　私は関西のロードランナーズ「ジアーク」の仲間で、サンケイスポーツ紙の結城氏を始め皆さんにお世話になり、明石大橋マラソンでもボランティアで仕事を与えて頂いた。一昨年から２年続けて参加した市民マラソン大会では各地にて販売に協力した。またカンボジア支援交流のＴシャツの収益や、企業からの募金などでささやかなボランティア活動の一役を果たし、そしてカンボジアのマラソンでは最終ランナーのサポート役を務めさせて頂いた。このように活動の場を与えて頂くことは本当に有り難いことである。これからも生涯現役で無理をしないで少しずつ実行できる場を与えて下さる事を願っている。

私のボランティアは決して背伸びをして贅沢な物を贈るということではなく、自分のできることでお手伝いさせて頂くことです。さらに温かい気持ちを添えることがボランティア活動を長続きさせるコツではないでしょうか。特にスポーツを通じてのボランティアは私にとって生涯の活動にしていきたいと思っております。

子ども達の笑顔との再会を楽しみに皆さんとご一緒にカンボジア支援に協力してまいりましょう！

WASHINGTON GROUP HOTELS
ホームページ

旅なれた人ほど、ワシントン

全国どこでも、ワシントンクリオティ。
58都市、67のネットワークがおもてなしいたします。

新宿ワシントンホテル

成田エアポート
ワシントンホテル

秋葉原ワシントンホテル

北へ南へいい旅
ワシントン グループ ホテル

ワシントンホテル チェーン
札幌第1　札幌第2　藤田観光旭川　帯広　青森　八戸第1　八戸第2
秋田　北上　仙台第1　仙台第2　山形　天童　鶴岡　福島
郡山　会津若松　新潟　燕三条　宇都宮　千葉　成田エアポート
秋葉原　新宿本館　新宿新館　横浜伊勢佐木町　福井　宝塚　福山
松江　キャナルシティ・福岡　佐世保　長崎　沖縄　※'98年開業予定／浦和

ワシントンホテル プラザ チェーン
高崎　長野　富山　上越　高岡　金沢　静岡北　名古屋
名古屋金山　名古屋笠寺　岐阜　飛騨高山　新大阪
大阪なんば　神戸　姫路　岡山　広島　鳥取　米子　島根浜田
高松　松山　高知　徳島　小倉　博多中州　久留米
佐賀　熊本　大分　宮崎　鹿児島　※'98年開業予定／甲府

藤田観光株式会社
〒105-8551　東京都港区海岸1-9-15　☎03-3433-4253

第17回AMDA国際医療協力研究会

◇

研究会担当　大脇　甲哉（町谷原病院整形外科）

開催日時及場所：

1998年2月19日（木）

講演者及内容：別府　昌美（AMDAナイロビオフィス調整員）ソマリア洪水救援活動について

講演内容：

96年10月からナイロビオフィスのコーディネーターとして活動している。

ナイロビオフィスはアフリカ中部のプロジェクトのバックアップオフィスとして設立された。自分が赴任した当時は菊池・佐藤の2名がいた。　ケニア国内のロルゴリアン・プロジェクトとルワンダ等のプロジェクトの支援を行っていた。ケニア政府にNGO登録されて1年経過したため会計監査があり、その準備に時間がかかった。ロルゴリアンはナイロビから車で7時間かかるところにある。現在は地元にプロジェクトを引き継ぎ資金面でも支援はしていない。ナイロビオフィスには現在林がおり2人体制で仕事をしている。

97年12月ソマリア洪水救援活動を行った。ソマリア南部のジュバ川にあるジリブという街で、ウガンダ人医師ジョージ、ルワンダプロジェクト調整員佐々木と自分がソマリアのローカルNGOであるMercyと共同して活動した。ソマリアでは97年の10月から大雨が続き死者2000人以上であった。死因は下痢、マラリア、ハイエナ・ワニに襲われたもの、洪水により流れ出した地雷によるもの等である。家畜や田畑も重大な被害を受けていた。住居を失った避難民は10万人以上であり1960年以来最大の被害だった。我々が活動を開始するまえにソマリアで活動を行っていたのは、

UNICEF、WFP、ICRC、CARE、MSF、SCFでありUNICEFが救援活動全体を調整していた。

12月18日から30日まで3名による診療活動を行い、98年1月12日に医薬品のみの搬送を行った。医薬品450Kg、飲料水、インマルサット、蚊帳、ベットマットを携行した。CAREがこの一帯で活動しておりその調整員と話し合い、下痢とコレラに対する医療活動を対象にした。ジリブ周辺の村における診療活動を、29日まで行った（一日70～130人を治療）。実際の病気はマラリア、上気道感染症、下痢の順だった。

問題点：洪水が始まってから一ヶ月たってから活動をしたため、緊急期ではなくなっており通常の疾病が多かった。現地の高温多湿の環境になじめないメンバーがいた。抗生物質と駆虫剤がすぐになくなってしまった。クリスマスとラマダンが重なり薬の調達や輸送の面で不便だった。

利点：医師がウガンダ人だったため、現地の疾病や現地の人間を理解していた。CAREとジョイントしたことがロジスティックの面で有効だった。

質問　現地の普段の医療システム

回答　Mercy Internationalが4つのヘルスポストを運営していた。看護婦とCHWがいたが、物資は乏しかった。

質問　原因不明の出血熱について

回答　1月2日南アフリカでリフトバレー出血熱であると同定された。

ナイロビオフィスの今後の活動方針・JICAと合同で西ケニアでプロジェクトを計画しており現在調整中

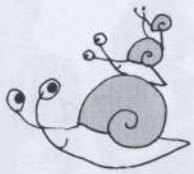
・ナイロビ市内のスラムでミシン教室を行い、マイクロクレジットを行う予定。

・ルワンダプロジェクトの後方支援

栃木便り

若葉の下で

岩井 くに
（自治医科大学動物学助手）



春が来たと思っていたら、もう若葉の季節です。自治医大でも卒業生を送りだしたと思ったら、もう、新入生がキャンパスを闊歩しています。医動物学教室では講義や実習が始まるだけでなく、寄生虫相談も多くなる、忙しい季節です。そんなある日、新入生対象に防災訓練がありました。自治医大学生寮の防災訓練は、体育科の先生が企画しただけに。男女問わず寮の3階からなわばしごを降りる訓練があります。女子学生の担当になった私、3階から下を見たとたんに足がすくみ、学生の上級生に代わりに降りてもらいました。「ああ、情けない！来年はさっそうとなわばしごを降りてやるぞ。」と密かに決意を固め、手始めに、学生と一緒に体力測定を受けてみました。

その結果は；身長 159cm。体重 60.6kg（う、ウソだー！）、体脂肪 17.7kg 体前屈 2cm（あぁ、やっぱり、昔からこれは苦手だった…）背筋力 106kg 握力 右31kg、左30kg。垂直飛び 40cm 反復横飛び 42回/20秒というわけで、20年ぶりの体力測定、総合診断は「体力はまあまあ保たれているが、太りすぎ」。どうも、お菓子食べ食べ夜中まで机に向かってたのがいけなかったようです。体育科の先生には「何だ、18キロも脂肪じゃないか」とさんざん笑われ、「老人でもできる」タイヤチューブ体操と毎日20分のウォーキングを処方されました。

さっそく翌日から始めたはいいものの、体操とウォーキングで朝晩1時間ずつはかかります。「こ、これホントに老人でもできるの？」と言いたくなるほどタイヤチューブ体操はハード、「早足で歩くのってこんなにつらいものだったの？」とはあはあ息を切らし、最初の3日は食欲をなくすほど疲れはて、これでは仕事にならない、と落ち込みました。それでも我慢して続けること1週間、ようやく全部のメニューをこなせるようになり、今では朝は6時に眼が覚めて、若葉の下を歩くのが日課。すがすがしい空気の中、同じように歩いている人、イヌの散歩をしている人…草むらのレンゲソウやスミレ…突然目の前にぶらさがってる毛虫！（きゃっ）まあ、いろいろありますが、体を動かすのはいいものです。先週からは、「バランスのとれた食事もしなくちゃ」と半年ぶりに自炊まで始めてしまいました。この調子では仕事の能率はさっぱり上がりそうにないのですが、やっぱり健康第一です。

日本はこれから急速に高齢化が進むと予想されています。65才以上人口比率が最高になるのは2020年、そのとき私は60才です。今のままでは安心して寝たきりになっていられないばかりか、もっと年をとった人たちの面倒もみなくてはいけないかも知れません。「今のうちに体力をつけてなるべく長く健康で自立できるようにしておかないと…」と思う気持ちと「来年は、ゼッタイなわばしごを降りてやる」という意地。今日も若葉の並木道をゼーゼー言いながら歩いています。ところで体重の方は？…。

自動車用・工業用ゴム製品の総合メーカー
⑤ 丸五ゴム工業株式会社
本社・工場 倉敷市上富井58 ☎(086)422-5111㈹ FAX(086)427-8585
矢掛工場 小田郡矢掛町東川面417 ☎(0866)82-0467㈹ FAX(0866)82-0467
営業所 東京・浜松・名古屋・大阪

平成9年度 カウンターパート合同研修
フイリッピン及びザンビア 「地域保健医療」について

◇

AMDAボランテイア　藤井　倭文子

AMDAは今年4月、国際協力事業団からの依頼で上記研修を岡山にてお受けしました。担当は財務局長の成澤貴子さんでしたが、年度末決算業務及び新年度計画で書類の山にうずまっておられたので私がお手伝いした次第です。ボランティア一年生の私にはAMDAでは緊急救援活動以外にこの様な支援活動にも協力されている事に敬服し、今回非常に多くの事を学ばせて頂きました。読者の皆様により深くAMDAをご理解頂くために研修内容を報告させて頂きます。

参加研修生： フイリッピンより看護婦2名・ザンビアより保健婦1名及び保健管理チームメンバー1名

研修期間： 平成10年4月13日～24日

研修概要：

4.13（月） まずAMDAにて，事業推進局長Dr. F. Floresによる研修全般についての説明

（医）アスカ会にて、岡山での地域医療、高齢者支援システム（在宅及び施設）・ゴールドプランと老健・デイケア及び訪問看護の活動等についての説明（責任者：和気一栄看護介護部長）

4.14-16 御津郡加茂川町にて、地域保健見学及び体験（責任者：片山舜平町長）

4.14（火） 地域行政及び地域施設訪問（加茂川町役場・吉備松下及び吉備高原都市内見学）

4.15（水） 母子保健・保健福祉業務について学ぶ

4.16（木） 農村福祉活動（住民会·婦人会·老人クラブなどの組織）について学ぶ

4.17（金） 岡山市高松農業協同組合にて、地域協同組織について学ぶ（責任者：難波義太代表理事組合長）

母子活動について、婦人部講演及び見学、有機農業について、講演及び見学

4.18-19（土-日） 自由行動及びＡＭＤＡスタッフと交流（菅波茂代表、山本秀樹副代表）

4.20（月） 岡山済生会総合病院及び済生会ライフケアセンターにて、総合医療施設視察

総合病院の組織と活動について学ぶ（責任者：浜家一雄副院長）

4.21（火） （医）アスカ会にて、高齢者看護について体験学習（和気一栄看護介護部長）

4.22（水） 岡山市保健所にて、ライフサイクルにあわせた保健活動と保健所の機能

生涯保健制度について学ぶ。保健所施設見学（責任者：高木寛治所長）

4.23（木） 岡山市立中山小学校にて、学校保健（責任者：岡民子校長）

義務教育機関の保健行政について学ぶ

4.24（金） ＡＭＤＡにて、報告書作成及び評価会（Flores局長及び津曲兼司ＡＭＤＡ医師）

（敬称略）

紙面に制限あり各研修機関の関係最高責任者のお名前のみ記載させて頂きました。それぞれの関係各位の皆様には貴重なご経験と、時間と、知識を惜しみなくご提供くださり大変有り難うございました。

ホームステイ

2泊3日にわたる加茂川町研修では、片山町長及び銭本三千年氏がホストファミリーをお引き受け下さり、真心溢れるおもてなし大変有り難うございました。研修生達は片山家では親子4代にわたる家族構成の中での強い家族のきずなに感動し、銭本家では特に自分達の写真をホームページにのせて頂いた事に大変興奮しておりました。

日本の高齢化社会に驚いた研修生達

大きな理由は平均寿命にありました。フイリッピンでは男女とも約65歳、ザンビアでは男性45歳、女性55歳でこれはエイズが原因で平均寿命はここ数年下降ぎみだそうです。今回の研修で接した高齢者の方々の中に将来の研修生自身を想像され高齢者福祉と介護の大切さについてその心を学ばれました。

研修生達からの寄せ書き感謝状

これは大変珍しい事だそうで、報告させて頂きます。宛先はAMDAの皆様へとなっていますが、研修生達との会話から、お世話になった皆様に対しても同様の謝意を抱いていた事をお伝え申し上げます。

People at AMDA

Thank you very much for your support and the nice learning activities given us. We gained a lot of information to share when we come home. I hope you can come and visit our country in the near future. (Frida Elefane, Philippines)

私達のために準備して下さった充実した研修内容と皆様のご支援大変有り難うございました。母国の同僚と共有できる多くの情報を取得いたしました。近い将来皆様が私達の国を訪れて下さる事を望んでおります。（フリーダ エレファン、フイリッピン）

— — — — — — — — — —

My deepest gratitude for the concern and support. The program/activities we have been through are all beneficial to us. Japan's health system is very different from the Phils., but I know we can adopt some of it with modification. I will surely miss your company and Karaoke party. Would you like to come to the Phils,? And let's have Karaoke party again. Lastly, I salute everybody in AMDA. You are committed & dedicated to your workÅD(Marcelina Rodriguez, Philippines)

皆様のご関心とご支援にたいし、心より感謝しております。私達が体験したプログラム及び活動はどれも為になりました。日本の保健制度はフイリッピンと比べると大変異なっていますが、修正すればそのいくつかは採用出来ると思います。皆様との交流とカラオケパーティを懐かしく思いだすでしょう。フイリッピンへお出でになりませんか？ 又、カラオケパーティを致しましょう。最後に仕事に本気で取り組み情熱をそそいでおいでのAMDAの皆様に心から敬意を表します。（マルセリーナ ロドリガス、フイリッピン）

— — — — — — — — — —

My greatest gratitude to the AMDA staff. I have learnt quite a lot concerning the MCH programmeÅD Çshank you for arranging the whole programme for us in Okayama. Please continue to give us this support. Our Zambia's health system is almost the same as Japanese health system. At least

H９カウンターパート地域医療合同研修
向かって左から、
前列：レオニサ ムンガバ（ザンビア）
マルセリ ナロドリガス（フイリッピン）
フリーダ ヴァスケ（フイリッピン）
メアリー バンダ（ザンビア）
後列：藤井倭文子（AMDAボランティア）
成澤 貴子（AMDA）
関いずみ（広島JICA）

what I have learnt I try to improve our present MCH services. Good luck. Keep up the good work. Arigato gozaimashita.(Mary Banda, Zambia)

私の心からの感謝の気持ちをAMDAの皆様に送ります。母子保健に関して非常に多くの事を学びました。私達のために大変充実した岡山でのプログラムを準備して頂き有り難うございました。どうか引き続き我々をご支援下さい。ザンビアにおける我々の保健制度は日本の保健制度とよく似ています。少なくとも今回取得した事を基に現在の母子保健サービスを改善して行きたいと思います。どうか良いお仕事を続けて下さい。幸運をお祈り致します。有り難うございました。（メアリー バンダ、ザンビア）

— — — — — — — — — —

AMDA took all the pains months before our arrival in Okayama preparing our programme. After we arrived, AMDA was always with us. Offices in AMDA worked extra hard just for our sake. We ate and drunk, even singing in individual homes and restaurants. All I can say is Arigato gozaimashita. (Leonisa Mungaba, Zambia)

AMDAは私達が岡山へ到着する数ヶ月も前から、プログラム作成のために骨を折って下さいました。岡山到着後AMDAは常に私達に同行して下さいました。AMDAオフィスの皆様は私達のために一生懸命尽くして下さいました。私達は大変楽しく暮らしました一個人のご家庭でもレストラントでも歌いました。私は“有り難うございました”以外に言葉が見つかりません。（レオニサ ムンガバ、ザンビア）

第２回NGOカレッジご案内

—1998年７月25日（土）～29日（水）—

募　集

昨年４月にオープンした広島国際協力センターにおけるNGO支援主要事業として、AMDAと連携して、以下のとおり第２回のNGOカレッジを開催します。基礎コース参加希望者は６月下旬までに、NGOカレッジ実行委員会までお申し込み下さい。

●目　的

政府や自治体が行う国際協力に加え、草の根レベルの国際協力・貢献活動を促進するために、海外において、地域開発や医療、緊急援助を行うNGOのエキスパートを養成する。

●主　催

NGOカレッジ実行委員会（広島県・AMDA・（財）ひろしま国際センター）

●実施場所（国内講座）

広島国際協力センター（広島県東広島市鏡山三丁目3-1　ひろしま国際プラザ内）

●事業内容

国際協力、国際貢献活動に必要な知識を効率的に習得するため、レベルに応じた講座（基礎コース・実践コース）を設置し、基礎から応用へ無理なくステップアップできるシステムを作るとともに、海外における協力活動の実践的なノウハウの取得を主眼とした「海外スタディツアー」を実施する。

【国内講座】基礎コース（基礎知識の習得を中心に行う）

・実施時期　平成10年7月25日（土）～29日（水）　５日間

・講座内容　全14講座　○基礎理念　１講座
　○基礎知識　６講座
　○NGO人材育成と組織マネジメント　４講座
　○ケーススタディ　３講座　等

・募集人員　60名

・受講料　一人　20,000円（宿泊・食事代は除く）

【国内講座】実践コース（実践的かつ専門的な知識の習得に重点を置く）

・実施時期　平成11年２月上旬　３日間

・講座内容　○海外プロジェクト別シュミレーション
　○各海外プロジェクトの関連分野の専門家による指導

・募集人員　30名

・受講料　一人　15,000円（宿泊・食事代は除く）

【海外スタディツアー】

・実施時期　平成10年8月下旬

・訪問予定国　フィリピン

・訪問先　海外プロジェクトの活動体験や視察
　AMDA国際ボランティア研修センター（マニラ）での研修
　青年海外協力隊、国際協力事業団（JICA）の視察　他

・募集人員　20名（国内講座＜基礎コース＞受講者から募集）

・参加費　実費

●お申し込みは、広島県・国際交流課（前田）　TEL 082-228-2111

AMDAスタディツアーのご案内

—1998年7月より1998年11月まで—

一般公募

AMDAが海外で実施している活動や現地NGO、日本政府の国際協力の現場等を視察し、現地の人々と触れ合うことを目的として、下記の内容にて「1998年度AMDAスタディツアー」を企画しています。参加ご希望の方は、詳細な資料を担当旅行社までお申し込み下さい。

【スタディツアー内容】

プロジェクト	定員	最小催行人員	費用	ツアー期間	担当旅行社	内容
ネパール1	15名	10名	約24万円	7月25日～7月31日	YWCAエデュケーショナルトラベル	医療・福祉施設訪問、視察　他
ネパール2	15名	10名	約24万円	8月1日～8月7日	YWCAエデュケーショナルトラベル	医療・福祉施設訪問、視察　他
ネパール3	15名	10名	未定	11月1日～11月8日	YWCAエデュケーショナルトラベル	医療・福祉施設訪問、視察 AMDA子ども病院の開所式参加と見学
フィリピン	20名	10名	未定	8月22日～8月30日	YWCAエデュケーショナルトラベル	AMDA国際ボランティアセンター視察 現地NGO視察　他
カンボジア	20名	10名	約20万円	8月23日～8月29日	（株）エフサンツーリスト	AMDAカンボジアクリニック視察 教育施設・デイケアセンター アンコールワット見学　他
バングラデシュ	20名	4名	約22万円	7月末又は8月半ば	（株）エフサンツーリスト	AMDA移動診療所 DSKプロジェクト視察　他

AMDAスタディツアーご参加について

1、参加費用については、概算で算出してあります。
正式な経費は、別途参加者にお知らせいたします。
費用には原則として、往復航空運賃、現地研修期間中の宿泊費・食費・団体移動の交通費が含まれています。

2、旅行日程については、各担当旅行社までお問い合せください。
YMCAエデュケーショナルトラベル　担当：瀬良　TEL：082-222-3003　FAX：082-222-3437
（株）エフサンツーリスト　担当：長谷川　TEL：03-5275-3917　FAX：03-5275-6925

3、日程については、航空機の便数などの関係上、2、3日程度前後する可能性もあります。

4、研修国内ではスタッフが同行いたしますが、日本から研修国までの往復旅程については参加者のみでの移動のツアーもあります。

5、AMDAスタディツアーは会員の方へのご案内ですので、未加入の方は事前にAMDA会員に登録して下さい。

旅行企画：『AMDA本部事務局』
旅行主催：『YMCAエデュケーショナルトラベル　AMDAスタディツアーデスク』
『（株）エフサンツーリスト』

ご協力ありがとうございました

AMDAの使用済みテレフォンカード収集キャンペーンは、多くの皆さまのご協力を得て、右記の通りの収益を得ることができましたので、ご報告いたします。

この収益金は、かねてよりお知らせしていましたように、ネパール・カンボジア・ミャンマーなど、AMDAがアジアで行っている地域医療活動費に充てさせていただきました。

ご支援ありがとうございました。

尚、収集キャンペーンは1月末をもちまして終了いたしました。

使用済みテレカ回収結果

収入先	月　日	金　額	
NTT買上	97.3.15	80,000	小計
	97.9.5	190,000	492,000
	97.12.4	72,000	
	98.3.5	150,000	
その他買上	97.7.23	5,000	小計
	97.9.22	5,000	164,000
	97.10.9	5,000	
	97.10.20	5,500	
	97.11.4	8,000	
	97.11.11	5,000	
	97.12.5	50,000	
	97.12.22	6,000	
	97.12.24	30,000	
	98.1.30	5,000	
	98.2.6	5,500	
	98.2.12	33,500	
	98.2.13	500	
合　計			656,000

国際ボランティアを志す人に必携の書

はばたけ！NGO・NPO

好評発売中

（財）ひろしま国際センター編
定価　1,850円（本体 1,762円）
四六判・328ページ
発行　中国新聞社

目　次

序　章　市民の平和学
第1章　今なぜ国際ボランティア
第2章　国際ボランティアの実践
第3章　国際ボランティアをめざす人へ
第4章　地方自治体と国際貢献
第5章　国連および国際協力団体
第6章　21世紀へ新たな取り組み

外国人の悩みにこたえます

AMDAの国際医療情報センター

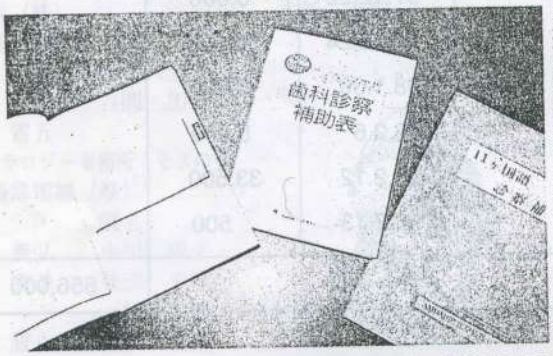
電話で病院を紹介

東京8ヵ国語 大阪4ヵ国OK 年々増える相談

「病気になったが日本語をうまく話せず、医者に説明できない」「どこの病院に行けばいいのか…」。岡山市に本部のあるアジア医師連絡協議会（AMDA）は、日本で生活する外国人のこんな悩みにこたえるため、東京と大阪に「国際医療情報センター」を設け、電話相談を受け付けている。東京は英語、中国語、スペイン語など八カ国、大阪では四カ国に対応できる相談員が常駐し、無料で医療機関を紹介。相談件数は年々増え続け、在日外国人のニーズの高さを示している。

日本で生活する外国人に医療情報を提供している、東京のAMDA国際医療情報センター

都内ビルの一室に入居する東京のセンター。ブラジル人から「風邪をひいた。近い病院を紹介してくれ」と電話がかかってきたとすると、ポルトガル語の話せる相談員が病状などを聞き出す。すぐさまセンター事務局員がコンピューターに登録された全国四百三十の医療機関の中から、適当なものを複数選び出す。地理に不案内な人には交通手段を伝えることもある。



相談内容は「言葉の通じる医療機関の紹介」「医療費」「保険制度」「エイズ関連」などさまざまだ。日本での生活になじめない人から、悩みごと相談を持ち掛けられることもあるとか。

相談のポイントは相手の名前を聞かないこと。「不法在留者もいるようで、入国管理局に通報されることを心配するケースもあるが、私たちの目的は医療情報を提供することにある」と青木繁行事務局長。

受け付けは電話相談のみだ。相談者のプライバシーを守り、不特定多数からの相談を受けることによるトラブルを避けるため、相談員の名前は明かさないことにしている。また、面談による相談は受け付けていないことから、センターの住所は公表していない。報道関係の取材にも住所が特定されたり、相談員の顔や名前が分かることがないよう要望している。

相談の対象が医療問題であるため、微妙な病状を聞き出すにはレベルの高い語学力が求められる。センターに登録している相談員七十五人は、留学生や海外生活の経験が長い日本人など。日本語で病状を的確に訳せる能力も必要で「計八時間の研修と三カ月の見習い期間を経なければ相談員になれない」と青木事務局長。

AMDAが国際医療情報センターを東京に設けたのは平成三年四月。五年二月から東京都の委託を受け、救急患者の通訳をする救急通訳サービスなども行っている。同年十二月には大阪にもセンターを開いた。

相談件数（都からの委託分は除く）は、東京のセンターは発足した平成三年度の千百四件から年々増加し、七年度には三千件を突破、九年度は約四千件に達した。大阪のセンターも毎年度、千件前後の相談が寄せられている。

センターは電話相談のほか、医療機関や薬局が外国人に対応できるよう、診察時の言葉を補助する十一カ国語のテキストや九カ国語の服薬指導本、十六カ国語の歯科診察補助表をつくった。また、シンポジウムやセミナーで医療機関に協力を呼び掛けている。

青木事務局長は「センターの存在が口コミや、各自治体の国際交流センターなどを通じて知られるようになるにしたがって、相談数も増えてきた。安心して医療を受けたいという要望はまだまだある」とみている。

AMDA国際医療情報センターの受け付け、問い合わせは次の通り。

東京＝電03・5285・8088（月曜から金曜の午前九時～午後八時、救急通訳サービス午後五時～同十時、土日祝日は救急通訳サービスのみ午前九時～午後十時）

大阪＝電06・6362・2333（月曜から金曜の午前九時～午後五時）

AMDAの国際医療情報センターがつくった医療機関や薬局が外国人に対応するテキスト

AMDA国際医療情報センター便り

1. 電話による相談（無料）：外国語の通じる医療機関の紹介、日本の福祉・医療制度案内など
2. 外国人の医療問題に関するシンポジウム、セミナーの開催
3. 「１１ヶ国語診察補助表」「９ヶ国語対応　服薬指導の本」
「１６ヶ国語対応　歯科診察補助表」および「両親学級の資料」の出版、販売
4. 東京都健康推進財団からの受託事業（センター東京）

センター東京

〒160-0021東京都新宿区新宿歌舞伎町郵便局留

相　談 TEL：０３-５２８５-８０８８
事務局 TEL：０３-５２８５-８０８６　ＦＡＸ：０３-５２８５-８０８７

対応言語：　英語・中国語・スペイン語・韓国語・タイ語：
時　間　　月曜日～金曜日　９：００　～　１７：００
ポルトガル語：　月、水、金曜日　９：００　～　１７：００
ピリピノ語：　水曜日　９：００　～　１７：００
ペルシャ語：　月曜日　９：００　～　１７：００

センター関西

〒556-0000 大阪市浪速区浪速郵便局留

相談／事務局TEL：０６-６３６-２３３３　ＦＡＸ：０６-６３６-２３４０

対応言語：　英語・スペイン語：　月曜日～金曜日　９：００　～　１７：００
時　間　ポルトガル語：　火曜日　１３：００　～　１６：００
中国語：　木曜日　１３：００　～　１６：００

ホームページ　http://www.osk.3web.ne.jp/~amdack/

在日タイ人ＨＩＶプロジェクト報告

所長　小林米幸

エイズ予防財団外国人研究者招へい事業を利用してバンコックジェネラルホスピタルのプラパポーンヨスコーン婦長を招いて行われた同プロジェクトも平成９年９月１日に始まり本年３月３１日無事終了いたしました。このプロジェクトを支えてくだ さった多くの方々に紙面をお借りして御礼申し上げます。本来、プロジェクトの報告はまずエイズ予防財団に対してすべきでありますが詳細な結果のまとめ、解析にはなお少しの時間がかかりそうですので簡単な報告のみ、ここにさせていただきます。

１．プラパポーン氏派遣件数　延べ５０件

１）派遣理由　ＨＩＶ関連　のべ４６件 実数２３名
その他　のべ４件

２）ＨＩＶ関連延べ４６件、実数２３名について

男女比　Ｍ：Ｆ＝７：１６

派遣先及び回数（都道府県別）東京都１０，神奈川県７，茨城県２，愛知県２
長野県１，千葉県１　計２３

のべ派遣回数　東京都２５，神奈川県１４，茨城県３，愛知県２
長野県１，千葉県１　計４６

その後の経過　帰国９名＝９／２３＝３９．１％　うち　１名帰国後１１日目死亡

2．プラパポーン氏電話相談件数　１６２件

ＨＩＶ関連件数　９７件、実数４８名（男女比Ｍ：Ｆ＝１２：３６）

４８名中自己申告によるＨＩＶ陽性者　４１名（Ｍ：Ｆ＝１１：３０）

3．派遣と電話相談の関連（ＨＩＶ関連ケースのみ）

派遣件数２３件中１２件＝１２／２３＝５２．２％

電話相談４８件中１２件＝１２／４８＝２５．０％

・ＨＩＶ関連の電話相談４８件中残る３６件が派遣につながらなかったわけでなぜつながらなかったのかさらに検討の必要がある。多くの医療機関、医療従事者、タイ人患者から高い評価をいただいた本プロジェクト ではあるが、招へい研究者の住居の問題などの費用の点、センター事務局スタッフの 多忙な中での関わり合いなどまだまださまざまな問題を抱えている。とはいうものの 本プロジェクトの意義は大きく、通年事業への格上げが強く望まれる。

尚、詳細の報告は、エイズ予防財団へ提出の予定である。

センター開設７周年記念キャンペーン実施中！

-６月末日までにお申し込みになると送料は無料-

「１６ヶ国語対応　歯科診察補助表」—外国人が安心して歯科医院にかかることができるよう、また、医療機関・医療従事者が外国人の治療に関わる事項を正確に伝えることができるよう、必要最低限の内容を１６ヶ国語に翻訳し出版いたしました。受付での会話、受診理由、症状、麻酔や抜歯の経験等の内容が１言語１９頁にわたり掲載されております。

構成言語：英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語、ペルシャ語、タイ語、ラオス語、カンボジア語、ベトナム語、ベンガル語、フィリピン語、ロシア語、フランス語、インドネシア語、マレー語

・AMDA国際医療情報センター編　Ｂ５版　３２５ページ　　定価　５，２５０円（税込み）

「１１ヶ国語診察補助表」—実際の診療の流れに沿って、「受付にて」「患者から医師へ」「医師から患者へ」の３部より構成。日本語と外国語との併記により外国人患者の診察にすぐ役立ちます。

構成言語：英語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語、中国語、フィリピノ語（タガログ語）、タイ語、ベトナム語、カンボジア語、ラオス語、ペルシャ語

・AMDA国際医療情報センター編　１１ヶ国語１組　Ａ４版　　定価　５，２５０円（税込み）

「９ヶ国語対応　服薬指導の本」—外国人に安全に薬を使用していただくため、また外国人に薬の使用法を正確に伝えるため、必要な情報を掲載。どのような症状があり、どのような薬が欲しいのか、病歴・アレルギーの有無、定期的に服用している薬、服用時の注意事項、副作用の説明など。日本人が世界各国へ旅行や海外出張に行く場合にも便利です。

構成言語：英語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語、中国語、フィリピノ語、タイ語、ベトナム語、ペルシャ語

・AMDA国際医療情報センター編　Ｂ５版　１５４ページ　　定価　５，２５０円（税込み）

「両親学級の資料」—AMDA国際医療情報センター関西が１９９７年夏に開催した外国語による両親学級の資料。ポルトガル語、スペイン語、中国語、英語がそれぞれ日本語と併記されています。

①妊娠中の過ごし方と母子保健に関わる制度について

②出産のしくみと経過、産後の注意、育児について

・AMDA国際医療情報センター関西編

各言語別売り　　Ａ４版　１言語２冊１組　１，０００円（１冊　５００円）（税込み）

お申し込みは、各センターまで。

AMDA国際医療情報センター
運営協力者

１９９８年１月～３月受付　１９９８年度新規・継続会員、ご寄付者（順不同敬称略）　ご協力ありがとうございます。

ご寄付（個人）
田中ひろ子
相馬久子
竹内七郎
苅野　貞
浜　京子
奥山巌雄
松井恵子
井上美由紀
浅野きくゑ
西川武彦
伊藤真理
加藤豊子
塩津多恵子
大脇甲哉
宮崎葉子
青木繁行
政田利奈
神藤喜美子
津島真利絵
青木和子
ﾏｲﾃｨ ｱｽｺｰﾅ
清水茂美
小久保陽子
董　恒
佐藤光子
坂田　棗
香取美恵子
西川直子
中戸純子

ご寄付（団体）
新生教会
仁愛医院
大塚薬局
耳鼻咽喉科・早川医院
黒沢クリニック
田宮クリニック・産科・婦人科
東京諸聖徒教会
浅草聖ヨハネ教会
神愛教会
三井物産株式会社
いずみの会
興和新薬（株）
三共（株）
グラクソ三共（株）

一般会員
小久保陽子
今津由美
角　泰人
糸川央子
奥山巌雄
松井恵子
田宮　親
海野尚久
赤枝恒雄
岩井くに
丹　邦子
田宮貞和
田中英夫
角　玲子
藤井功一
野尻京子
木村眞人
本間輝雄
井上美由紀
西川武彦
朱ソウケツ
田中　義
岡本悦司
大西誠一郎
窪田　雅
林　福勝
寒竹レナ
林田昇平
簡野晃次
秋山健一
相馬久子
洪　永隆
土屋忠久
土屋隆一
新倉美佐子
江夏国治
高木　直
苅野　貞
片岡和男
中村安秀
右田　佑
大塚薬局
宝蔵康守
向　泰徳
山田統正
竹内美恵子
藤本　巌
竹田　勝
藤本ｴﾄﾞﾜｰﾄﾞ敬三
野和田リーコ
宮口妙子
高倉恭夫
西村アメリア
董　恒
大貫テレサ
黒子尭子
加藤豊子
稲葉全郎
鶴田光子
瀬戸美佐子
小林謙治
塩津多恵子
青木和子
杉山精一
岩本　淳
瀬尾千鶴
大脇甲哉
福川　隆
豊田孝成
立花三郎
山田瑞子
宮崎葉子
田中大三郎
佐藤忠彦

学生会員
駱　学儒

団体会員
伊藤医院
黒沢クリニック
高橋クリニック
はしひら医院
高岡クリニック
永生病院
小林国際ｸﾘﾆｯｸ
宮島医院

切手のご寄付
杉原賢治

助成金
ライオンズクラブ
チャリティファンド
（両親学級のため）

お名前を掲載しない方１２名

ご寄付のお願い　当センターは寄付などにより運営されています。おいくらからでも結構です。
ご支援よろしくお願い申し上げます。

会員募集　精神的、経済的に援助して下さる会員の方を募集しております。

当センターはAMDA（本部岡山）とは会計が別のため、独立した会員制度を設けております。

AMDA本部の会員ではございませんので、お間違えのないようお願いいたします。

会費：　個人会員　１口　6,000円　/　団体会員　１口 20,000円
学生会員（高校、大学、専門学校生）　１口　2,000円
ｼﾞｭﾆｱ会員（中学生以下）　１口　1,000円

４月より翌年３月までの１年間とする。何口でもけっこうです。

広告募集　年間12万円

以上詳細はセンター東京（03-5285-8086）までお問い合わせ下さい。ご協力をお待ちしております。

郵便振替：００１８０－２－１６５０３　加入者名：ＡＭＤＡ国際医療情報センター
銀行口座（広告料のみ）：さくら銀行　桜新町支店　普通５３８５７１６
口座名：ＡＭＤＡ国際医療情報センター　所長　小林米幸

１６カ国語対応 **歯科診察補助表** 好評発売中！

英語・スペイン語・ポルトガル語・中国語・韓国語・ペルシャ語(ｲﾗﾝ)・タイ語
ラオス語・カンボジア語・ベトナム語・ベンガル語(ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ)
フィリピノ語(ﾀｶﾞﾛｸﾞ)・ロシア語・フランス語・インドネシア語・マレー語(ﾏﾚｰｼｱ)
本体　￥５０００（消費税・送料別）　お問い合わせは：センター東京　TEL ０３-５２８５-８０８６

クラヤ薬品(株)

〒102-0094
東京都千代田区紀尾井町 3-12 紀尾井町ビル
TEL 03-3238-2700（代表）

産婦人科　心療内科
OB／GYN／PYCHOTHERAPY
伊勢佐木クリニック
ISEZAKI WOMAN'S CLINIC
〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町 3-107
Kビル伊勢佐木 2 階
TEL 045-251-8622

内科（老人科）・理学診療科
医療法人社団　慶成会
青梅 慶友病院
〒198-0014 東京都青梅市大門 1-681 番地
●入院のお問い合せ— TEL 0428-24-3020（代表）
院長　大塚宣夫

循環器科・内科・心臓血管外科
医療法人社団
北光循環器病院
理事長　太田茂樹
〒065-0027 札幌市東区北 27 条東 8 丁目
TEL 011-722-1133 FAX 011-722-0501

内科・理学診療科
医療法人
福川内科クリニック
大阪市東成区東小橋 3-18-3
ボングービル 4 F（住友銀行鶴橋支店前）
TEL06-974-2338
診療時間
午　前　9：30～12：30　午後 3:30～6：30
土曜日　午前 9：30～午後12：30
日曜日　午前10：00～午後12：30
休診日　木曜日、祝日、最終日曜日

PAX INTRANTIBUS SALUS EXENTIBUS
医療法人社団
慶泉会
● 町谷原病院
外科　肛門科　泌尿器科
整形外科　形成外科
脳神経外科　内科
〒194-0003 東京都町田市小川 1523
TEL 0427-95-1668
● 町谷原クリニック
人工透析センター
リハビリセンター
〒194-0003 東京都町田市小川 1530-6
TEL 0427-99-6500

あなたのために、いいものを……
ラフォーレ緑
La forêt
倉敷市水島北春日町13-18
TEL086-448-6011

16ヶ国語対応
「歯科診察補助表」
英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語、ペルシャ語、タイ語、ラオス語、カンボジア語、ベトナム語、ベンガル語、フィリピン語、ロシア語、フランス語、インドネシア語、マレー語
受付での会話、受診する理由、症状、麻酔や抜歯の経験、医師からの治療についての説明、診療時の指示、治療後の注意事項、次回の予約など内容が 1 言語 19 ページに渡り掲載されています。
本体　5,000 円（消費税・送料別）
●お問い合せ、お申し込み先：
センター東京　電話　03-5285-8086
センター関西　電話　06-636-2333

広告募集中！
お申し込みは
（株）JR西日本コミュニケーションズ
086-223-6964 岩井
（株）新通エス・ピー・センター
06-533-6191 青山

内科　消化器科　整形外科　神経内科
精神科　理学診療科

医療法人社団 永生会
永生病院
774 床

脳ドック
老人保健施設
イマジン開設

◆人間ドック　企業健診◆

〒193-0942 東京都八王子市椚田町 583-15
TEL 0426-61-4108

医療法人社団
三好耳鼻咽喉科
クリニック
院長　三好　彰

〒981-3133 仙台市泉区泉中央 1-23-6
TEL 022-374-3443
FAX 022-378-3886

有限会社 都商会

サリー薬局	〒214-0021	川崎市多摩区宿河原 2-31-3	☎ 044-933-0207
エリー薬局	〒214-0001	川崎市多摩区菅 6-13-4	☎ 044-945-7007
マリー薬局	〒214-0036	川崎市多摩区南生田 7-20-2	☎ 044-900-2170
十字路薬局	〒211-0068	川崎市中原区小杉御殿町 2-96	☎ 044-722-1156
セリー薬局	〒216-0003	川崎市宮前区有馬 5-18-22	☎ 044-854-9131
アミー薬局	〒242-0005	大和市西鶴間 3-5-6-114	☎ 0462-64-9381
マオー薬局	〒242-0021	大和市中央 5-4-24	☎ 0462-63-1611

お手本は、
自然の中にありました。
ぼくは、アゲリ・アリ
小さな知恵から、
豊かな未来へ。
全農

♣ 消化器科・外科・小児科 ♣

小林国際クリニック
Kobayashi International Clinic
小林國際医院

診療時間：平　日　月曜日～金曜日　9：15～12：00／14：00～17：00
土曜日　9：15～13：00
休診日　水曜日、日曜日、祝祭日

☎ 0462-63-1380

神奈川県大和市西鶴間 3-5-6-110
小田急江ノ島線・鶴間駅下車徒歩 4 分

事務局便り

「昨年のルワンダ支援コンサートに引き続き、今回は2回目ということで、メンバーも力のこもった演奏だった。」「岡安氏の朴訥なウガンダのお話がなかなか良かった。」5月9日（土）広島県福山市の福山リーデンローズで開催されたNew Swing DolphinsのAMDAウガンダ病院建設支援Jazzコンサートに訪れた皆さんからの感想です。

New Swing DolphinsとAMDAを結び付け、定期的にAMDA支援コンサートを開催していただくサポートをし、こうして感想まで聞いて下さったのは、三菱電機福山支部の藤井逸子さんです。

コンサート風景

右端　藤井逸子さん

藤井さんの名前は本誌の国際協力ひろばのページで何度となく皆さんのお目に留まったことと思います。様々なかたちでのボランティア活動を紹介するこのページに、休日を利用して取材を続け、記事を投稿して下さる藤井さんは、AMDAボランティア記者さんでもあります。「投稿記事をただ待っているだけではだめ！自分の足でユニークなボランティア活動をみつけて、紹介したい」と言う藤井さんは、今月も精力的にAMDAへのボランティア活動をこなして下さいました。

尚、藤井さんの勤務先、三菱電機福山支部の皆さんも、AMDAで書籍の整理や、翻訳などのボランティア活動を続けて下さっています。

左端：日高奉文氏　右端：瀬政光彦氏

6月が近くなると、今年もまた“アフリカンマエストロ”の時期がやってきたなと感じます。アフリカンマエストロはAMDAだけの6月の季語となってしまいました。

「アフリカンマエストロの目的は、AMDAのアフリカでの活動を紹介することもあるけれど、AMDAのスタッフの皆さんに楽しんでもらいたい」と3年前から、岡山・美星町の中世夢が原で支援コンサートを開催して下さるのが日高さんと瀬政さん。

アフリカの楽器と日本の尺八のあまりに自然なセッションは心に優しく染み込んできました。アフリカンサウンドに知らず知らずにリズムをとって、誰よりもさきに踊り出すのはAMDAスタッフでした。今年はどんな楽器に、そしてどんなサウンドに出会えるのでしょうか！

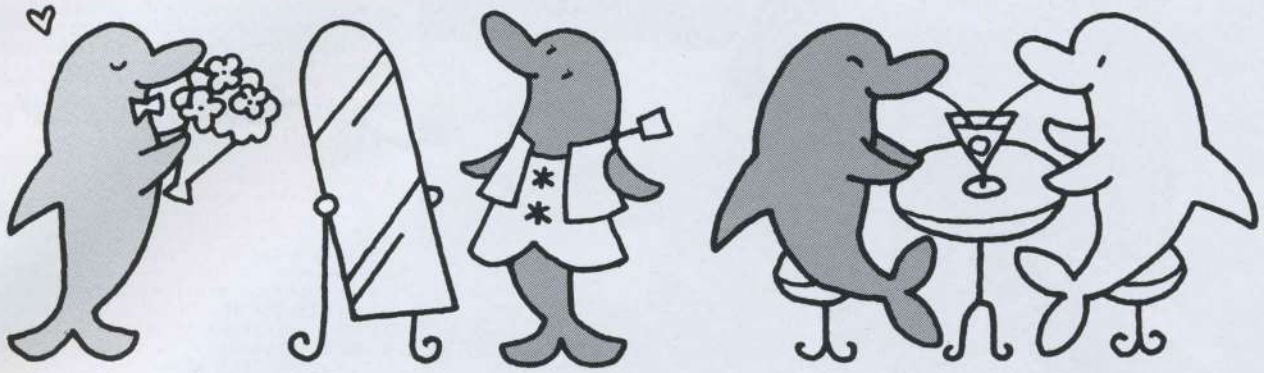
第3回AMDA活動支援コンサート
African Maestro

6月26日（金）　開演19：30
（開場18：30）
中世夢が原、武士の屋敷前広場
大人　3,000円
＊問い合わせ先
中世夢が原　0866-87-3914

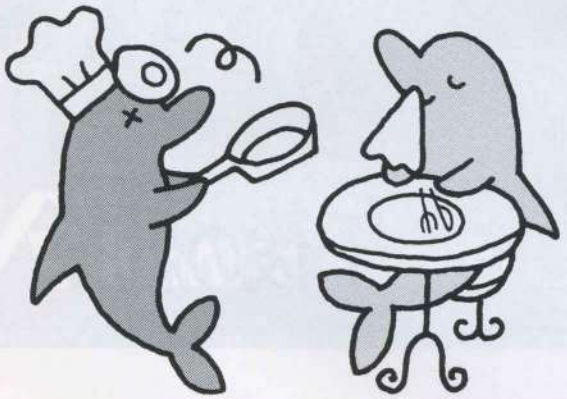
AMDA Journal に関するお問い合せは、AMDA広報局　TEL 086-284-7730 まで

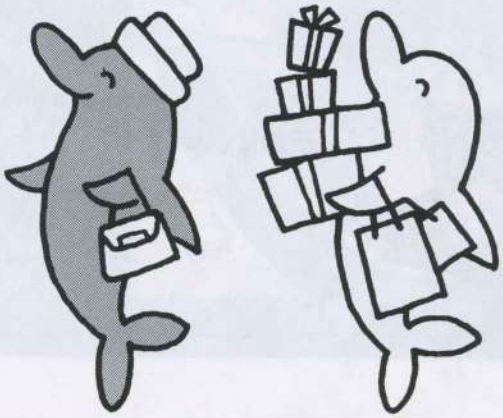
ご入会、会費、ご寄付、その他ご購入のための振込は、本誌綴じ込みの郵便振替用紙をご使用になるか、下記口座をご利用下さい。いずれも振込目的を明記して下さい。
■中国銀行一宮支店（普通）　口座番号１２７２０１１　口座名　AMDA
■第一勧業銀行岡山支店（普通）　口座番号１８１６９４７　口座名　AMDA
■クレジットカード（全日信販のAMDAカード）での会費納入方法もあります。
AMDAカードについてのお問い合せは、全日信販株式会社　本社営業部　086-227-7161です。

AMDAホームページ
http://www.amda.or.jp



お食事、おみやげ、ショッピング…
いちばんがいには、ごきげんがいっぱいなのだ。





サービス駐車のご案内

岡山林原駐車場、ホテルグランヴィア岡山駐車場もご利用いただけます。

●3,000円以上お買い上げで1時間無料　●5,000円以上お買い上げで1時間30分無料

岡山一番街

OKAYAMA ICHIBANGAI

●営業時間／10:00~20:00
（全光薬品・カメラのサンヨー・岡山ランドリー／8:00~20:00）
■喫茶／9:00~21:00
■お食事／11:00~22:00
■岡山うまいもんどころpaku-paku／9:00~20:00
（アンデルセン／7:30~20:00、結納まるふく／10:00~20:00）
●インフォメーション ☎(086)232-9411

KIRIN Beverage

<応募方法>キリン午後の紅茶についている缶及び紙容器商品の応募シールと、ペットボトルのバーコードをどれでも5点分を1口として応募ハガキまたは普通ハガキに貼り付けてください。(缶及び紙容器の応募シール、500mℓペットボトルのバーコードは1点分、1.5ℓペットボトルのバーコードのみ3点分)そして、あなたの 1.郵便番号 2.住所 3.氏名 4.年齢 5.性別 6.電話番号を明記の上、ご応募ください。ハガキ1通につき最大4口までご応募できますが、必ず口数をご記入ください。●対象商品／キリン午後の紅茶340g缶(ストレートティー、ミルクティー、レモンティー、ノンシュガーストレートティー)、キリン午後の紅茶280g缶(ロイヤル)、キリン午後の紅茶250mℓ LLスリム紙容器(ストレートティー、ミルクティー、レモンティー、ノンシュガーストレートティー、ロイヤル)、キリン午後の紅茶250mℓ LL紙容器(ストレートティー、ミルクティー、レモンティー)、キリン午後の紅茶500mℓペットボトル(ストレートティー、ミルクティー、レモンティー、ノンシュガーストレートティー)、キリン午後の紅茶1.5ℓペットボトル(ストレートティー、ミルクティー、レモンティー、ノンシュガーストレートティー)※缶商品及び紙容器商品は応募シールが貼付されているものを対象とします。●宛先／〒119-0336 東京都日本橋郵便局私書箱292号 キリン午後の紅茶「すわりのいいコイズミトランクプレゼント」係 ●締切／1998年7月15日(水)当日消印有効 ●当選発表／厳正なる抽選の上、当選者を決定。発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。●詳しくは「午後の紅茶ダイヤル」東京03-3829-5959 大阪06-377-5959へ。※賞品のデザインは、一部変更になる場合があります。※キリンビバレッジ(株)の社員および関係者の応募はご遠慮ください。※応募されたハガキはご返却いたしません。ご了承ください。※応募シールには5種類のデザインがありますが、どれでもご応募いただけます。※写真の、サングラス及びトランク内の小物はプレゼントに含まれません。キャンペーン情報満載／ http://www.beverage.co.jp ビバレッジパーティー内【BP情報局】へ／ キリンビバレッジ

抽選で10,000名様に

すわりのいいコイズミトランクプレゼント

こんどのコイズミトランクは、こんなにいい！

◎すわりていい！背もたれを開くだけで、すわりのいいイスに変身。
◎おしゃれていい！外は籐素材で、中はタータンチェックの内張り。
◎ついてていい！真っ赤なバンダナと、ネームタッグもついてくる。

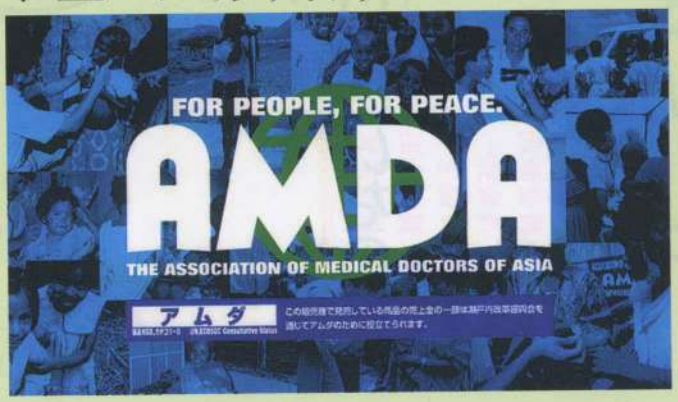
のんだあとはリサイクル。

紅茶でなくちゃ、ダメなんだ。

午後の紅茶

自動販売機でAMDAを応援します

人間なのだからお互いに助け合う。



「してあげるのではなく、一緒にやること」

この自動販売機のお問い合わせは下記へお願いします

ヒカリエンタープライズ株式会社

岡山市松新町678-11　TEL (086) 943-2228

協賛　アサヒ飲料株式会社・大塚製薬株式会社・カルピス株式会社・キリンビバレッジ株式会社・中国松下システム株式会社・富士電機冷機株式会社・サンデン株式会社・三洋電機自販機株式会社

NEO TRADITIONAL

古き良き時代のレーシングフィールドの興奮を現代に、
"本物だけが、歴史を創造する。" 人間と機械の優雅なハーモニー。
伝統の優れた機能を最新の技術で引き出し、古典的な優美さを芸術性豊かに醸し出す。

ネオ・トラディショナル レーシングタイプドラムブレーキ

kanrin ㈱カンリン 〒702-8001 岡山市沖元464
TEL.086-274-3056 FAX.086-277-8115

OS Racing Power Unit & Parts Development
GIKEN Co.,Ltd.
〒702-8001 岡山市沖元464 TEL.086-277-6609 FAX.086-277-8115

"ハニーワッフルスィートキャンペーン"

オークヒルズが贈る
Wチャンス!!

クイズに答えるか、パッケージの◯部分を切り取って送ってください。

ちょっと幸せな
キャンペーンのお知らせです。

Aコース

クイズ
◯の中に文字を入れて下さい

○○○ワッフル

ヒント:ベルギー生まれの
お洒落なお菓子
"ハニーワッフル"

正解者の中から抽選で

ハニーワッフルのふるさと
ベルギーとフランスの旅にご招待
5組10名様

Bコース

Oak Hills オークヒルズ Oak Hills オークヒルズ のマークを2枚
貼って送れば素敵なプレゼントが当たります

ケーキブランチセット
100名様

※賞品は写真と多少異なる場合があります。
オークヒルズの素敵なお菓子
詰め合わせセット
100名様

幸せなお菓子のブランド オークヒルズ

応募方法

官製ハガキに Aコース:クイズの答えを書いて
Bコース:マーク(2枚1口)を貼って

郵便番号、住所、氏名、電話番号、性別、年齢、職業を明記の上
〒550-0005 大阪市西区西本町1-5-7 株式会社新通SPセンター内
"ハニーワッフルスィートキャンペーン" 事務局A係までお送り下さい。
ハガキ1枚につきA、Bどちらかのコース1口とし、
お一人様何口でもご応募いただけます。

締め切り 1998年7月31日(月) 当日消印有効

発表 ご当選者には後日連絡するか賞品の発送をもって発表にかえさせていただきます。

●旅行主催／(株)阪急交通社
●旅行内容／期間:6泊7日 1998年11月以降実施(予定) 出発地:関西国際空港
目的地:ベルギー、フランス(予定)
●ご注意／当選の権利は当選者本人と同伴者1名に限り有効とさせていただきます。権利の譲渡、換金はできません。旅行当選者は健康で団体旅行に支障がなく期日前に渡航手続きができる方に限らせていただきます。(未成年者の場合は、保護者の同伴もしくは同意書が必要です。) 旅行に関する日本国内での交通費、宿泊費及び旅行現地でのオプショナルツアー参加費、空港利用税、パスポート取得費、保険料等は全て当選者のご負担となります。 詳しくは当選者に直接ご連絡いたします。

※今回ご応募いただいた方にはベルギー旅行の案内状を送付させていただくことがあります。

Oak Hills オークヒルズ
オークヒルズ　丸中製菓 株式会社
〒675-2105 兵庫県加西市下宮木町玉ノ坪555-1
Tel.0790-49-2924

AMDA Journal －国際協力－ 1998年6月号
1998年6月1日発行（毎月1日発行） VOL.21 No.6 1995年11月27日 第三種郵便物認可 定価800円
発行／エイド企画 編集／AMDA 〒701-1202 岡山県津310-1 TEL086-284-7730 FAX086-284-8959
AMDAホームページ http://www.amda.or.jp